

平成24年度

外部評価委員会報告書

平成25年2月13日(水)

香川高等専門学校

目 次

1. 平成 24 年度香川高等専門学校外部評価委員会議事次第	1
2. 香川高等専門学校外部評価委員会委員名簿	2
3. 香川高等専門学校外部評価委員会規程	3
4. 平成 24 年度香川高等専門学校外部評価委員会資料一覧	5
5. 平成 23 年度香川高等専門学校外部評価委員会での提言 に対する対応状況	6
6. 香川高等専門学校 平成 23 年度 年度計画・実績報告	15
7. 香川高等専門学校 平成 24 年度 年度計画	22
8. 将来構想計画案の策定状況	43
9. 香川高等専門学校外部評価委員会委員からのご意見等（要約）	46

平成 24 年度

香川高等専門学校外部評価委員会 議事次第

日時：平成 25 年 2 月 13 日(水)14：00～

場所：香川高等専門学校高松キャンパス

(2 階第一会議室)

1. 開会

2. 校長挨拶と趣旨説明

3. 委員紹介

4. 委員長選出

5. 議題

① 「平成 23 年度外部評価委員会での提言に対する対応状況」

② 「将来構想計画案の策定状況」

6. 意見交換

7. 閉会

香川高等専門学校 外部評価委員会 委員名簿

(氏名の五十音順 敬称略)

七宝会会長	金子 知好
高松市副市長	岸本 泰三
高松工業会会長	住田 博幸
香川県教育委員会教育次長	竹林 敏之
香川県中学校長会会長	田中 伸治
株式会社香川銀行取締役会長	遠山 誠司
公益財団法人かがわ産業支援財団理事長	中山 貢
香川高等専門学校産業技術振興会会長	平田 喜一郎
香川大学工学部長	増田 拓朗
香川県商工会議所連合会専務理事	山田 哲也
四国電力株式会社常務取締役	山地 幸司
三豊市長	横山 忠始

香川高等専門学校外部評価委員会規程

平成 21 年 10 月 1 日制定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、香川高等専門学校内部組織規則第 22 条第 2 項の規定に基づき、香川高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）について定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、香川高等専門学校の点検評価を踏まえ、今後の教育・研究並びに学校運営の一層の発展・充実に資するため、第 3 条に定める外部評価委員による次の各号に掲げる事項を評価する。

- 一 教育理念、目的、目標及び方針に関すること。
- 二 教育活動に関すること。
- 三 学生支援に関すること。
- 四 研究及び地域連携に関すること。
- 五 国際交流に関すること。
- 六 管理運営及び施設整備に関すること。
- 七 その他委員会が必要と認める事項

(組織及び任期)

第 3 条 委員会は、校長が評価項目に関し、十分な評価能力を有すると認められる学外の評価委員をもつて組織する。

- 2 委員は、校長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

(代理者の出席)

第 5 条 第 3 条の委員は、やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該評価委員があらかじめ指名した代理者を、委員会に出席させることができる。

(評価実施方法)

第 6 条 委員会は、資料による調査、本校で実施するヒヤリング及び実施調査等で評価を実施する。

(事務)

第7条 外部評価の実施に関する事務は、総務課研究協力係において処理する。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

平成 24 年度 香川高等専門学校外部評価委員会 資料一覧

資料 1 香川高等専門学校外部評価委員会規程

資料 2 大学等を設置するまでの流れ

議題資料①- 1

平成 23 年度外部評価委員会での提言に対する対応状況

議題資料①- 2

香川高等専門学校 平成 23 年度 年度計画・実績報告

議題資料①- 3

香川高等専門学校 平成 24 年度 年度計画

議題資料②

将来構想計画案の策定状況

冊子資料

『平成 24 年度 学校要覧』

『香川高等専門学校 年報 2011』

『平成 23 年度 香川高等専門学校 F D ・ S D 研修会報告書』

平成23年度外部評価委員会 での提言に対する対応状況

副校長 田嶋 眞一

平成23年度外部評価委員会での提言事項

- 英語教育の充実について
- 中長期の計画と年度計画の進捗状況の検証について
- 重点課題の絞り込みについて
- 学生の生活指導について
- 中学生へのPR活動について
- 基礎学力の向上について
- 高専の取組む地域人材開発について
- 国際的に活躍できる技術者の養成について
- 他の教育機関との幅広い交流について
- 学生の質の向上や学校の力の向上に繋がる地域連携活動について
- 51高専における香川高専の評価について

2

平成24年度 外部評価委員会

中長期の計画と年度計画の進捗状況の 検証について

- 中期長期目標を立てて、それに向けて全員がベクトル合わせをして、成果をどんどん出し、それをみんなで共有するというのをやることにより、随分成果が出る。
- この外部評価で、全体がこうなっているんだというのを示して、今は何年目でここまで来ているというのにも必要ではないか？
- 年度毎で評価を行っているが、その評価はどこまでいったらこの評価になるのかが少し見え難いのかなという気がする。

3

平成24年度 外部評価委員会

中長期の計画と年度計画の進捗状況の 検証について

- 国立高等専門学校機構の第2期中期目標・中期計画(H21~H25)
- 年度計画(単年度)
文部科学省独立行政法人評価委員会
- 香川高専第2期中期計画(H21~H25)
- 年度計画(単年度)
- 年度計画・実績報告
- Web上で公開

4

平成24年度 外部評価委員会

高専機構年度計画の文部科学省独立行政法人評価委員会による評価

独立行政法人国立高等専門学校機構の平成23年度に係る業務の実績に関する評価

【(大項目)1】	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	【評定】 A
		H21 H22 H23
		A A A
【(中項目)1-1】	教育に関する事項	【評定】 A
		H21 H22 H23
		A A A
【(小項目)1-1-1】	(1)入学生の確保 入学者の確保に関する取組状況	【評定】 A
		H21 H22 H23
		B B A
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】		
<中期計画>		
① 中学校長や中学校 PTA などの全国的な組織との関係を緊密にするとともに、進学情報誌を始めマスコミを通じた積極的な広報を行う。		
② 中学生が国立高等専門学校での学習内容を体験できるような入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等を充実させ、特に女子学生の志願者確保に向けた取り組みを推進する。		
③ 中学生やその保護者を対象とする各学校が共通的に活用できる広報資料を作成する。		
④ ものづくりに関心と適性を有する者など国立高等専門学校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。		
⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、中期目標の最終年度においても全体として 18,500 人以上の入学生志願者を確保する。		
<年度計画>		
① 全日本中学校長会、地域における中学校長会などと連携を深め、国立高等専門学校への理解の促進を図るとともに、マスコミ等を通じ広く社会に向けて国立高等専門学校の PR 活動を行う。		
また、高等専門学校制度創設50周年に向けて、公私立の高等専門学校協会と連携し、各種広報活動を行う。		

項目別-1

委員会

5

② 国立高等専門学校における入学説明会、体験入学(オープンキャンパス)、学校説明会等の取組について調査し、その事例を各学校に周知するとともにその成果を分析する。 また、高等専門学校を卒業し産業界等で活躍する女性の情報等を盛り込んだ女子中学生向けのパンフレットの利活用を図る。			
③ 中学生及びその保護者を対象としたパンフレットについて、各学校での利活用状況調査を行い、その結果を踏まえた広報資料を作成する。			
④ 高等教育にふさわしい人材を選抜できるよう、入試方法の改善方策について検討し、実施可能なものを随時導入する。			
⑤ 各学校・学科における学力水準の維持のための取組を調査し、その事例を各学校に周知する。			
また、入学生志願者に係る調査結果の分析を踏まえ、とりわけ入学生志願者が減少している学校・学科においては入学生志願者の確保方策について検討し、改善を行う。			
【インプット指標】			
	21年度	22年度	23年度
中学生、保護者、中学校教諭対象の説明会(回)	1,377	1,330	1,366
各高等専修色の掲載したパンフレットやDVD(映像資料)などの入試広報資料の作成状況(千部)	2,964	2,958	3,221
体験入学、オープンキャンパス(回)	182	171	190
小中学校向けの公開講座等(回)	1,081	936	898
応募人員数(人)※	6,373	6,307	6,302
※機構本部及び全51 高等専修色の教職員全てで、何らかの形で入学生の確保に係る業務を行っているため、従事人員数として全教職員数を計上している。			
評価基準	達成	分析・評価	
①-1 全日本中学校長会等と の連携状況 ・全日本中学校長会、地域における中学校長会などと連携により、高等専修色に対する理解の促進が図られている。 ・マスコミ等を通じ、広く社会に向けた国立高等専門学校の PR 活動を積極的に行っている。	国立高等専門学校(以下、高等専修色)の特長、進路状況、学生生活などの内容が掲載された広報資料を活用し、中学生及び保護者に対して積極的に情報提供を行い、入学生志願者が増加するための取組を推進した。また、各高等専修色の教育委員会や中学校などに広報資料を配付・説明等を行うことにより、当該地域の中学生やその保護者、学校関係者に対する理解の促進を図ったほか、「キャリア教育(進路指導)担当指導主事会議」、「全国中学校進路指導連絡協議会」などの全国的な会議 ア教育(進路指導)担当指導主事会議」	・本年度入学生志願者数が増加に転じたことは、関係団体との連携や様々な広報活動、入試方法の改善等、これまで入学者確保のために実施してきた取組の成果と考えられ、評価できる。 ・一方、今年度の志願者数は、高等専修色本部及び各高等専修色の取組による効果以外の社会	

項目別-2

平成24年度 外部評価委員会

6

香川高専第2期中期計画(H21~H25)

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

- 1 教育に関する事項
- 2 研究に関する事項
- 3 社会との連携、国際交流等に関する事項
- 4 管理運営に関する事項
- 5 その他

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

III 予算(人件費の見積もりを含む。)

IV 短期借入金 の限度額

V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

VI 剰余金の使途

VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

の促進が図られている。	場での資料配付・説明等を行うことで、全日本中学校長会等の全国的な組織への理解の促進を図った。 さらに、各高等専修色における地域の中学校との連携について、その取組事例を各高等専修色で共有し、連携の推進を図った。	的要素の影響等も考えられ、また、高等専修色ごとに取組の優位性も見られる。そのため、今後とも引き続き、好事例の分析等も踏まえた入学生志願者増加のための取組が必要。
	<平成23年度中学校長会等との連携状況> ・所在地域の校長会等に参加し、意見交換会実施:28校(前年度27校) ・所在地域の校長会の会長等に対し、学内委員会の構成員を委嘱:28校(前年度20校)	・今後も、多方面にわたる志願者増加方策を実施すると共に、志願者数だけでなく、入学者の質についても検討が望まれる。
①-2 マスコミを通じた広報状況 ・マスコミ等を通じ、広く社会に向けた国立高等専門学校のPR活動を行った。	(1)新聞等への広告掲載 高等専修色を広く中学生にPRするため、中学生を対象とした全国紙の新聞(朝日中学生ウィークリー)に広告掲載を行った。また、各高等専修色においても地方紙等に入試案内を掲載するなど新聞等を利用した広報を行った。 〈例〉・朝日中学生ウィークリー(機構本部) ・山形新聞(鶴岡高等専修色) ・中日新聞(鳥羽南船高等専修色) 他、多数掲載 (2)雑誌・新聞への掲載 ・「文部科学時報」において、特集「進化する高等専修色～創造そして実践～」として、高等専修色の取組等を一挙一足紹介する連載企画が掲載された(平成21年9月号から毎月掲載されており、平成24年3月号まで連載された)。 ・社団法人日本産業機械工業会の機関誌「産業機械」において、連載コラム「エンジニアの夢たち」として、全ての高等専修色1校ずつ紹介する連載企画が掲載された(平成22年1月号から毎月掲載されており、平成25年度まで連載予定)。 ・「独立行政法人をゆく」(発行日:平成24年3月15日、発行所:イカロス出版株式会社)に、「ものづくり	・全日本中学校長会、地域における中学校長会などとの連携により、高等専修色に対する理解の促進が図られている。 ・マスコミ等を通じ、広く社会に向けた国立高等専門学校の PR 活動を積極的に行っている。

項目別-3

7

平成24年度 外部評価委員会

7

平成24年度 外部評価委員会

8

○ I-1-(1) 入学者の確保

○ 中期計画

- ① 後援会との関係を緊密にするとともに、積極的な中学校訪問など中学生及びその保護者に対して直に広報できる企画を進める。
- ② 入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスでの更なるPRと充実を図る。特に女子学生の志願者確保に向けた取り組みを推進する。
- ③ 中学生やその保護者を対象とする広報資料を作成する。
- ④ 高専教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように、入試方法の改善に努める。
- ⑤ 入学者の学力水準を維持するために、高専の特徴を周知することに努め、入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスを利用して志願者の確保を図る。

9

平成24年度 外部評価委員会

○ I-1-(1) 入学者の確保①

○ 平成23年度 年度計画

- ① 後援会との関係を緊密にするとともに、積極的な中学校訪問など中学生及びその保護者に対して直に広報できる企画を進める。
 - ・ 後援会と連携して入学案内等を配布し、積極的に広報活動を行う。
 - ・ 各中学校で実施する高校説明会に参加する。
 - ・ 在校生が出身中学校を訪問するなど、積極的に香川高専をPRする。
 - ・ 中学生向けだけでなく、小学生あるいは保護者や一般市民もターゲットとして学外で開催される各種イベントに積極的に参加して、高専をPRする。
 - ・ 学習塾の講師とのネットワークを強化する。
 - ・ 香川高専創基70周年・高専創立50周年に向けて、同窓会組織と連携した各種広報活動を検討する。

10

平成24年度 外部評価委員会

○ I-1-(1) 入学者の確保①

○ 平成23年度 実績報告

- ① 後援会との関係を緊密にするとともに、積極的な中学校訪問など中学生及びその保護者に対して直に広報できる企画を進める。
 - ・ 後援会役員等へ学校案内を送付し、近隣の中学校や中学生へのPRを行っていただいた。
 - ・ 両キャンパスの教職員が分担して、香川県を中心として近隣各県の中学校に担当者を決めて、入学確保のためのPR活動を行った。在校生(51人)及び教員(13人)が出身中学校(56校)を訪問し、香川高専のPRを行った。PRの結果については、学生及び教員から報告書を提出させた。この報告書は、次年度の活動に反映させる。
 - ・ 「サイエンススクール〜エネルギーについて調べてみよう!」などのイベントに参加し、一般市民にも香川高専のPRを行った。小中学生を対象に見学バスツアー(10/23)を開催した。
 - ・ 全国規模の明光義塾、湯口塾、高松高等予備校において、中学生・保護者に香川高専のPRを行った。香川県内の学習塾(14校)を訪問し、PR活動を行った。
 - ・ 本校同窓会に対して、ホームカミングデー(卒業生・家族との交流)を利用して香川高専創基70周年・高専創立50周年記念事業のPR活動を行った。

11

平成24年度 外部評価委員会

○ 香川高専 H23年度計画・実績報告

香川高等専門学校 平成23年度 年度計画・実績報告

平成23年度 年度計画		平成23年度 実績報告		自己評価	
香川高等専門学校(以下「香川高専」という。)の中期計画に基づき、平成23年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。		1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置		A	
1 教育に関する事項		1 教育に関する事項		A	
(1) 入学者の確保		(1) 入学者の確保		A	
① 後援会と連携して入学案内等を配布し、積極的に広報活動を行う。		① 後援会役員等へ学校案内を送付し、近隣の中学校や中学生へのPRを行っていただいた。		A	
各中学校で実施する高校説明会に参加する。		両キャンパスの教職員が分担して、香川県を中心として近隣各県の中学校に担当者を決めて、入学確保のためのPR活動を行った。		A	
在校生が出身中学校を訪問するなど、積極的に香川高専をPRする。		在校生(51人)及び教員(13人)が出身中学校(56校)を訪問し、香川高専のPRを行った。		A	
中学生向けだけでなく、小学生あるいは保護者や一般市民もターゲットとして学外で開催される各種イベントに積極的に参加して、高専をPRする。		PRの結果については、学生及び教員から報告書を提出させた。この報告書は、次年度の活動に反映させる。		A	
学習塾の講師とのネットワークを強化する。		「サイエンススクール〜エネルギーについて調べてみよう!」などのイベントに参加し、一般市民にも香川高専のPRを行った。		S	
香川高専創基70周年・高専創立50周年に向けて、同窓会組織と連携した各種広報活動を検討する。		小中学生を対象に見学バスツアー(10/23)を開催した。		S	
		全国規模の明光義塾、湯口塾、高松高等予備校において、中学生・保護者に香川高専のPRを行った。		S	
		香川県内の学習塾(14校)を訪問し、PR活動を行った。		A	
		本校同窓会に対して、ホームカミングデー(卒業生・家族との交流)を利用して香川高専創基70周年・高専創立50周年記念事業のPR活動を行った。		A	
2 入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスを複数回開催するなど、PRの充実を図る。		② 入学者募集説明会(10/7,8,11,12,13,11/5,6,19,20,26)の開催会場、回数を増やして実施した。		S	
各催し物の日程などを早期にホームページに掲載する。特に女子学生の高専卒業後の進路について調査を行い、その結果をPR活動に活かす。		体験入学(8/7,27)、オープンキャンパス(8/7,27,10/29,30,11/5,6)を実施した。		S	
		各催し物の年度計画を5月下旬にホームページに掲載し、変更の都度、内容を改訂した。		S	
		女子学生の高専卒業後の進路について調査を行った。その結果を今後のPR活動にどのように活かすか、検討中である。		A	

12

平成24年度 外部評価委員会

○ I-1-(1) 入学者の確保①

○ 平成24年度 年度計画

①後援会との関係を緊密にするとともに、積極的な中学校訪問など中学生及びその保護者に対して直に広報できる企画を進める。

- 前年度の実施状況を参考にして、後援会と連携した入学案内等の配布など、積極的な広報活動を行う。
- 各中学校で実施する高校説明会に参加する。
- 在校生が出身中学校を訪問するなど、積極的に香川高専をPRする。
- 中学生向けだけでなく、小学生あるいは保護者や一般市民もターゲットとして学外で開催される各種イベントに積極的に参加して、高専をPRする。
- 学習塾の講師とのネットワークを強化する。
- 香川高専創基70周年・高専創立50周年に向けて、同窓会組織と連携した各種広報活動を行う。

13

平成24年度 外部評価委員会

英語教育の充実について

- 英語教育のお話でTOEIC 400点というのは、とてもいい着眼点ではないか。
- 企業において海外でのシェアが伸びていれば、国内を縮小してでも海外の拠点を強化せざるを得ない。
- 今からの若者たちにとって英語というのはかなり欠かせない。或いは車の免許ぐらいのものになるのかもしれない。

14

平成24年度 外部評価委員会

英語教育の充実について

○ 外国人講師による英語専門授業 (専攻科生)

- TOEIC, ACE試験等の実施
- ネイティブスピーカーによる英会話主体の工学実験
- 高専機構による海外インターンシップ
(2名内定)
- 国際交流協定校との交流
- 学生による国際交流活動報告会
- 専攻科入学試験でTOEIC一部利用

15

平成24年度 外部評価委員会

外国人講師による英語専門授業

- 正修科技大学資訊行程系
謝隆斌 (Hsieh Long-Bing) 先生
- 情報ネットワーク論(H25/1/9・10・16・17)
 - 専攻科生が受講



- 特別講義: The Design and Implementation of a Tester for Automated Traffic Recording Devices with Loop Detectors (H25/1/11)

16

平成24年度 外部評価委員会

重点課題の絞り込みについて

- 目標や理念を設定していると思うが、たくさんの課題を作ってしまうとかえって分散する。
- 重点目標に絞り込んで、徹底的に役割分担をし、その成果をきっちりと出しておくというふうにしないといけない。
- 一番大事なのは理念を全員が賛同して共有できるようなものにしないと、後続かない。

17

平成24年度 外部評価委員会

重点課題の絞り込みについて

- 重点課題については、タスクフォースや、ワーキンググループなどを設置し対応しています。
 - 将来計画タスクフォース
 - 入学者獲得タスクフォース
- 他方、多岐にわたる成果も期待されている。

18

平成24年度 外部評価委員会

学生の生活指導について

- 低学年と高学年のところで生活の指導も含めて、どういうケアをされていますか。
- 特に認識を変えてやられていますか。

19

平成24年度 外部評価委員会

学生の生活指導について

- 生活指導面で、低学年と高学年での認識の差はあまりありませんが、以下のような点で少し異なる部分があります。
 - 服装や身だしなみの指導(低学年は制服)
 - ショートHRの実施
 - 学年主任による指導の統一

20

平成24年度 外部評価委員会

中学生へのPR活動について

- 基本的なレベルアップのためには、中学生に対してPRをしていかなければということですが、きっかけは別として、やはり学校の先生とか、そういう繋がりが一番大きかったように思っています。
- 中学校の先生方にどのようにアピールしていくかが大事ではないかと思います。

21

平成24年度 外部評価委員会

中学生へのPR活動について

- 新たに徳島県三好地区、愛媛県四国中央市地区を加え、入学説明会を5会場で7回実施、地区別学校説明会を8校区/会場で実施、2会場で体験入学を4回、オープンキャンパスを4回実施した。
- 岡山地区27校、愛媛地区7校、徳島地区10校の中学校を訪問し、資料配布/学校説明/募集説明を実施した。
- 在校生67名が出身中学校50校を訪問し、近況報告と学校説明を行った。
- 47中学校の高校説明会に参加し、募集説明を行った。
- 14塾/教室を訪問し、募集説明を実施、6塾/教室に募集関係資料を送付した。
- 本校「サイエンスフェスタ」会場では、「香川高専紹介コーナー」を開設し、広報ビデオの放映/学校紹介資料を配布した。
- 「キラキラ高専ガール」「朝日中学生ウイークリー」「高専ナビ」を募集説明会会場/イベント会場/中学校訪問で配布した。

22

平成24年度 外部評価委員会

基礎学力の向上について

- 大学へ高校生の約半数が行く時代になり、高校卒業生の採用が難しくなっている。その中で現場を含めていかにしっかりした、優秀な現場を伸ばせる人たちを採用するかということで、そういう意味で高専にはそういう役割を我々は期待している。
- そういう意味合いから、入学した学生が数学・物理・英語などの基礎学力をしっかり身につけ、専門の教育もしっかりとやって、そういう学生を社会に送り出すことが基本である。

23

平成24年度 外部評価委員会

基礎学力の向上について

- 数学・物理・英語・専門基礎などの基礎学力の向上のためには学習時間が必要
→ 補習
- クラス全員あるいは成績不振者を対象とする補習
- 平成24年度から、両キャンパスの始業時間を統一(8:50~)
- TA (Teaching Assistant) による補助

24

平成24年度 外部評価委員会

高専の取組む地域人材開発について

- 地域の人の技術レベルを上げるためにイブニングセミナーなどいろいろ企画するなど、企業関連の技術的な課題に対して協力しており、非常に素晴らしい。
- 人材開発にどういうスタンスで高専は臨まれているのかについて少しクエスチョンマークである。
- また、地域連携にしても選択と集中をしつかりやられて、どこかに特化された方がよいのではないかな。

25

平成24年度 外部評価委員会

高専の取組む地域人材開発について

- 技術的課題の解決
 - 技術相談
 - イブニングセミナー etc
- 技術者のスキルアップ
 - 組込み技術セミナー
 - 評価版でできる有限要素法解析 etc
- 地域の技術レベルアップ
 - Excel2010実力養成講座 etc
- 専攻科
 - 社会人特別選抜の実施
 - H16, H22各2名入学

26

平成24年度 外部評価委員会

国際的に活躍できる技術者の養成について

- かがわ産業支援財団の主催で海外に展開或いはこれから展開される企業と知事との懇談会を行ったときに、最近の若い方で海外の赴任を前提に採用するというと、なかなか来ない。国内で仕事をするということになると来てくれるということであった。海外赴任が前提ですよということになると採用が非常に難しい。そういった人材育成をぜひお願いしたいという声が相当数あった。
- 県内企業の方のこれからの事業運営は、この地域だけにとどまらず、世界各地に展開をされていくということで、そこで責任者や技術者の仕事をする方が絶対に必要になってくる。
- 今後カリキュラムの編成や人材育成の面で少し考えたらいいのではないかな。

27

平成24年度 外部評価委員会

国際的に活躍できる技術者の養成について

- 高専機構による海外インターンシップ
(2名内定)
- 国際交流協定校との交流
- 外国人講師による英語専門授業
(専攻科生)
- TOEIC, ACE試験等の実施
- 学生による国際交流活動報告会
- ネイティブスピーカーによる英会話主体の工学実験

28

平成24年度 外部評価委員会

国際交流・国際シンポジウム

- 東洋未来大学を学生6名、教員3名が訪問
- ISTS2012(H24/11/21-24)バンコク
 - 専攻科生4名・本科生1名が発表



濱田君の発表の様子

山下君の発表の様子

- 学生による国際交流活動報告会(11/13,1/16)

29

平成24年度 外部評価委員会

他の教育機関との幅広い交流について

- 香川大学工学部や農学部、医学部の方と様々な共同事業をやっているが、今日の話で、もっと香川高専の先生方と情報交換をしながら、共同事業や共同研究を積極的に進めていかなければと思う。そのための定期的な情報交換会や連絡会をできればと思う。
- 最近非常に連携が遅れているのが、例えば工学と医学、工学と農学、そういった特定の分野だけに限らず、もう少し専門が異なったところで共同で研究をしようという流れが非常に多い。
- そのあたりも含めて、物質系のカリキュラムという話があったが、もう少し社会連携というか、広い分野も含めた社会連携の部門も少し考えたい。

31

平成24年度 外部評価委員会

- 日台iGOシンポジウム2012(12/10・11) 聯合大学
 - 専攻科生1名・本科生1名が発表、優秀発表賞



The Excellent Presentation Awardの受賞

- 海外インターンシップ参加
 - 専攻科生2名、3月中旬から3週間

30

平成24年度 外部評価委員会

他の教育機関との幅広い交流について

- 西条市との連携協力協定
 - 西条農業都市プロジェクト
 - 農業栽培技術の可視化
- 三豊市との連携協力協定
 - 連携協力推進会議(5/25)
- 高松市との連携協力協定
- 香川銀行
 - 香川銀行・香川高専連携協力協議会(7/3)
- 香川県
 - 香川県・香川高専連絡会(2/8)

32

平成24年度 外部評価委員会

学生の質の向上や学校の力の向上に繋がる地域連携活動について

- 地域連携ということでは、みとよ少年少女発明クラブに協力いただいているが、保護者やクラブ役員の方からは詫間キャンパスで学習をするようになってから一気に能力が上がったと聞く。こういう高専の活動は高専の支持を広げ、底辺の拡大という意味で高専にとってもメリットがあると思うし、高専生が小学生を教えるということで高専生の人間的成長にもなるのではないかと思う。
- 三豊市の中小企業は、詫間キャンパスから指導・助言を得るなどしていることから、5年前と比べると三豊市の技術の研究拠点になっている。
- これらの活動等が学生の質の向上や学校の力の向上ということに繋がるように、今後いろんな点で学内でも検討を願いたい。

33

平成24年度 外部評価委員会

学生の質の向上や学校の力の向上に繋がる地域連携活動について

- みとよ少年少女発明クラブ
- 仁尾町八朔人形祭り
- 出前講座
- 共同研究・受託研究と卒業研究のリンク

34

平成24年度 外部評価委員会

51高専における香川高専の評価について

- 香川高専の取り組みとして産学連携、シーズ発表会、イブニングセミナーなどいろいろやっているが、全国的にみて51高専中の評価はどうかのかがわかれば、もっとわかりよいのではないか。
- 高専の場合は高専ごとに順位というのはつけないので、全国の高専がどれだけしたかということになっている。

35

平成24年度 外部評価委員会

香川高等専門学校 平成23年度 年度計画・実績報告

S : 年度計画を十分に履行している。
A : 年度計画をほぼ履行している。
B : 年度計画を十分に履行していない。
C : 年度計画を履行していない。

平成23年度 年度計画	平成23年度 実績報告	自己評価		
香川高等専門学校(以下「香川高専」という。)の中期計画に基づき、平成23年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。				
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
1 教育に関する事項	1 教育に関する事項			
(1) 入学者の確保 ① 後援会と連携して入学案内等を配布し、積極的に広報活動を行う。 各中学校で実施する高校説明会に参加する。 在校生が出身中学校を訪問するなど、積極的に香川高専をPRする。 中学生向けだけでなく、小学生あるいは保護者や一般市民もターゲットとして学外で開催される各種イベントに積極的に参加して、高専をPRする。 学習塾の講師とのネットワークを強化する。 香川高専創基70周年・高専創立50周年に向けて、同窓会組織と連携した各種広報活動を検討する。	(1) 入学者の確保 ① 後援会役員等へ学校案内を送付し、近隣の中学校や中学生へのPRを行っていただいた。 両キャンパスの教職員が分担して、香川県を中心として近隣各県の中学校に担当者を決めて、入学者確保のためのPR活動を行った。 在校生(51人)及び教員(13人)が出身中学校(56校)を訪問し、香川高専のPRを行った。 PRの結果については、学生及び教員から報告書を提出させた。 この報告書は、次年度の活動に反映させる。 「サイエンススクール～エネルギーについて調べてみよう!」などのイベントに参加し、一般市民にも香川高専のPRを行った。 小中学生を対象に見学バスツアー(10/23)を開催した。 全国規模の明光義塾、湯口塾、高松高等予備校において、中学生・保護者に香川高専のPRを行った。 香川県内の学習塾(14校)を訪問し、PR活動を行った。 本校同窓会に対して、ホームカミングデー(卒業生・家族との交流)を利用して香川高専創基70周年・高専創立50周年記念事業のPR活動を行った。	A		
		A		
		S		A
		S		
		A		
(2) 入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスを複数回開催するなど、PRの充実を図る。 各催し物の日程などを早期にホームページに掲載する。 特に女子学生の高専卒業後の進路について調査を行い、その結果をPR活動に活かす。	(2) 入学者募集説明会(10/7,8,11,12,13。11/5,6,19,20,26)の開催会場、回数を増やして実施した。 体験入学(8/6,7,27)、オープンキャンパス(8/7,27。10/29,30。11/5,6)を実施した。 各催し物の年度計画を5月下旬にホームページに掲載し、変更の都度、内容を改訂した。 女子学生の高専卒業後の進路について調査を行った。 その結果を今後のPR活動にどのように活かすか、検討中である。 PR活動の一環として女子中学生を対象とした講演会(10/29)を実施した。	S		
		S		S
		A		
(3) 中学生やその保護者を対象とした入学案内を作成する。 中学生向けの広報用DVDの配布、ICTオープンキャンパスを利用した広報活動を充実させる。 高専機構の作成した広報資料を有効活用する。	(3) 入学案内、学校案内、募集要項を見直し、全面的な改訂を行った。 省エネに合わせた広報用うちわ、中学生向け広報用DVDを作成し、配布した。 近隣の中学生から希望者を募り、本校のPRも兼ねて産業技術振興会の会社見学(3/24、37人参加)を実施した。募集はパンフレットの配布及びICTオープンキャンパスに掲載して周知した。 高専機構の作成した種々の広報資料を、学校訪問や各種イベントで配布した。	S		
		A		A
		A		
(4) 入学者の追跡調査などを行い、高専教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように推薦基準や選抜方法について検討する。	(4) 入学者の追跡調査を行い、入学試験委員会が推薦基準や選抜方法について検討し、出願書類の提出先を志望学科及び検査場によらず都合の良い方に変更するとともに、調査書の様式については香川県以外でも岡山県、徳島県、愛媛県の公立高等学校入学選抜要項による調査書の代用もできるようにした。	S		S
(5) 入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスなどを通じ、高専のPRを積極的に行う。 各種催し物の実施方法や内容について検討する。 入学者の減少した中学校を訪問して、情報収集に努める。 岡山地区への広報活動を積極的に行う。	(5) 入学者募集説明会(10/7,8,11,12,13。11/5,6,19,20,26)の開催会場、回数を増やして実施した。 体験入学(8/6,7,27)、オープンキャンパス(8/7,27。10/29,30。11/5,6)を実施した。 各種催し物の実施方法や内容について検討し、学生の協力を仰ぐなど学生主体の催しに改善した。 入学者の減少した中学校を訪問し、情報収集を行った結果と、県内並びに近隣の中学生数、高度化再編に伴う学生募集定員の変更と過去2年間の志願倍率等を総合的に分析して、統合初年度の高倍率に対する反動が志願者減少の原因であると位置づけた。 これを踏まえ、入試委員会検討結果に沿って夏から秋にかけて、積極的な募集活動を展開し、結果としてH24年度入試において、高度化再編初年度を上回る応募者を確保した。今年度の取組を次年度も継続強化する予定である。 岡山県での中学校訪問(27校)及び入学者募集説明会(2回)を行った。	S		
		S		
			S	
		S		
		S		

平成23年度 年度計画	平成23年度 実績報告	自己評価	
(2)教育課程の編成等 ① 学年進行中における教員配置、設備の更新等を計画的に行う。 専攻科の長期インターンシップの導入について、平成22年度に変更した専攻科教育課程表に基づく実績の積み上げを図る。 新分野の学科の設置や改組・再編・整備等の検討を行う。 専攻科においてネイティブ教員による英語授業を実施する。	(2)教育課程の編成等 ① 学年進行中における教員配置、設備の更新等を計画し、それに沿って計画どおり実施している。 平成22年度から専攻科に長期インターンシップを組み込み、専攻科生の積極的な参加を促した。 2年間の実績として90時間(2単位)を超える学生が増えてきた。 新分野の学科の設置や改組・再編・整備等について、校長の下に設置した将来計画検討タスクフォースにおいて、検討を進めている。 本科及び専攻科においてネイティブ教員や外国人講師を招聘し、英語授業や英会話セッションを実施した。	A	A
② 地域や学生のニーズに応じた新学科、新分野、コース制及び学科再編の検討を継続的に行う。	② 新分野の学科の設置や改組・再編・整備等について、校長の下に設置した将来計画検討タスクフォースにおいて、検討を進めている。	A	
③ 低学年における基幹的な科目(数学、物理、英語)の教育課程について継続的に到達度を把握する。 「数学」、「物理」については学習到達度試験の結果をもとに改善する。 「化学」については四国共通試験を四国高専拠点校として実施し、学力向上に努める。 「英語」については、技術者として必要とされる英語力の涵養に努めるため、TOEIC、ACE テストなどの結果を分析し、それをもとに教育内容の改善に努める。さらに、英検等の英語資格試験を活用して英語学習の動機付けを行う。	③ 3年生を対象とした数学と物理の基礎学力試験を実施した。 また、高専機構が行う数学と物理の学習到達度試験(3年生)と、四国地区高専で行う英語(3年)と化学(1～2年)の試験を実施した。 工学系数学統一試験EMaTの試験会場として高松キャンパスを登録し、今年度から両キャンパスの専攻科生に受験を勧め、全専攻科生の数学力の把握に努めている。 化学について、四国共通試験を本校が主導して実施した。 TOEIC試験の実施については、専攻科1年生及び本科の希望者に対して、4月、6月、11月、12月、1月、2月に実施した。 実践英語(専攻科)では、TOEICで400点以上を目標に英語科教員の協力を得て指導している。 ACE試験については、1年生から3年生の約400人に5月と1月に2週間にわたって実施した。 それぞれの試験結果の傾向を各教科で分析し、それぞれの授業の具体的な改善策として、過去問題や宿題による復習等の対応策等を検討している。 これまで詫間キャンパスで実施していた英語合宿を今年度から両キャンパスに導入した。	B	
④ 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価を実施し、教員にフィードバックする。 全学統一の授業アンケートシステムを整備し、教育活動の改善と充実に努める。 卒業生による学校評価の実施について検討する。	④ 在学生による授業評価を実施し、その結果は教員にフィードバックした。 全学統一の授業評価アンケートシステムは、平成25年度から運用させるため、準備を進めている。 同窓会組織を活用して学校への意見等を収集するなど、卒業生による学校評価の実施時期や方法について検討している。	A	
⑤ 学生の創造性を育み、知的財産教育を推進するため、学内発明コンテストを開催する。 全国高専ロボットコンテスト、全国高専プログラミングコンテスト、全国高専英語プレゼンテーションコンテスト及び全国高専デザインコンペティションへの学生の参加を積極的に支援する。 学生の発明コンテストへの応募を支援する。 高専体育大会へ参加する学生を積極的に支援する。	⑤ 学内発明コンテストについて、7/14に学内公募を行い、審査会を経て10/13に表彰を行った。(応募件数45件、表彰8件) 全国高専ロボットコンテスト等、全国規模のコンテストの成績は常に学生に披露し、学生表彰の対象とすることで、学生の関心と意識を高めている。 地区大会や全国大会で優秀な成績をあげているロボコンやプロコンチーム等に対して学生表彰を行った。 (参加実績) ・全国高専ブレコン 3チーム → 最優秀賞 1チーム ・全国高専ロボコン 2チーム → 2回戦敗退 1チーム ・全国高専英語ブレコン スピーチ 2人、プレゼン 1チーム → コセツ賞 1人 ・全国高専デザコン 2チーム 学内発明コンテスト最優秀2件、他1件を文部科学省、特許庁主催の全国発明コンテストに応募した。その結果、最優秀1件は高専部門において主催者の支援のもと受賞案件の特許出願を行うことができる「特許支援対象者」として選ばれる栄誉を得た。もう1件については、学内で独自に知財アドバイザーによる明細書等作成の指導に取組み、実用新案登録願を出願した。 高専体育大会への参加学生については、交通費などの支援を行っている。	A	S
⑥ 各高専の取組状況などを参考に、現在実施している社会奉仕活動や自然体験活動に、より多くの学生が参加できる体制の整備について引き続き検討する。 新入生合宿研修を実施する。	⑥ 社会奉仕活動として、川の水をきれいになろうという趣旨により、月に1回、香川県と共同して学生による「香東川」の清掃活動に取り組んでおり、このような活動は今後も継続して行う。 運動系クラブのリーダーシップ研修(9/30、10/1)を両キャンパス合同で実施した。 両キャンパス寮生の親睦促進を目的とした寮生交流スポーツ大会(10/15)を開催した。 国立大洲青少年交流の家において新入生合宿研修(4/21、22)を両キャンパス合同で実施した。	A	
(3)優れた教員の確保 ① 多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように、関係団体等を通じて教員の募集活動を行い、更なる多様な人材の発掘に努める。	(3)優れた教員の確保 ① 多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように、関係団体等を通じて教員の募集活動を行い、更なる多様な人材の発掘に努めている。	S	S
② 長岡、豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用する。引き続き、企業から任期を付して人材を受け入れる。 四国地区高専間の教員人事交流の制度化について検討する。	② 長岡、豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用している。 また、四国地区高専間の教員人事交流の制度化について、四国地区高専専務・事務部長会議において検討を行った。 H24年4月の人事交流は実現しなかったが、H25年以降も引き続き、人事交流を推進する。	B	
		B	B

平成23年度 年度計画		平成23年度 実績報告		自己評価	
③ 専門科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を採用時の条件とすることにより優れた教員の確保に努める。	④ 女性教員の積極的な登用に努める。 女性教員にとって働きやすい職場環境の整備について検討する。	④ 英語教員の補充について、応募資格を「女性」に限定して公募を行った。 女性教員のための職場環境の整備について、香川県内の高等教育機関における女性研究者が教育研究に力を発揮できる環境整備について検討する「香川県内女性研究者支援連絡会」に参加し、他機関との情報交換を通して、検討を進めている。	⑤ 高専機構の開催する各種研修会等に参加する。 全教員が参加するFD研修会を開催する。	A	A
				A	A
				A	A
⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰するとともに、国立高専教員顕彰に推薦する。	⑦ 教員の国内外の大学等での研究、研修及び国際会議参加に対し、旅費等の支援を行う。	⑦ 教員の国内外の大学等での研究、研修及び国際会議参加に対し、校長裁量経費から旅費等の支援を行った。	⑧ 平成23年度国立高等専門学校教員顕彰候補者に4名推薦し、うち2名が分野別優秀賞を受賞した。	S	S
				A	A
				A	A
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ① 教育の質の向上に資する教材や教育方法の開発を進めるために必要な支援を行う。 遠隔講義システムの検討並びにe-Learning教材の開発を行う。	② 在学中の資格取得を推進するために、資格を学修単位として認定する。 JABEE認定審査の継続審査を踏まえ、教育方法等の改善について検討する。 電子情報工学コースの平成24年度中間審査に備えて教育改善、及び、根拠資料の充実を図る。	② (4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ① 教育の質の向上に資する教材や教育方法の開発を進める取組は、校長裁量経費から必要な支援を行った。 遠隔講義システムを利用した遠隔授業は化学と英語で実施した。 e-Learning教材の開発については、コンテンツ「無線工学演習」を開発し、無線工学演習で活用して、第2級陸上無線技術士の「無線工学B」の合格者の増加につながった。(H22年度:26%(11/32人)→H23年度:32%(8/22人))	③ 中国四国地区高専専攻科研究交流会に積極的に参加し、他高専との交流を推進する。 学生を大阪大学へのインターン研修に参加させる。 平成24年度中国四国地区高専専攻科研究交流会開催に向けて準備する。	A	A
				A	A
				A	A
③ 中国四国地区高専専攻科研究交流会に積極的に参加し、他高専との交流を推進する。 学生を大阪大学へのインターン研修に参加させる。 平成24年度中国四国地区高専専攻科研究交流会開催に向けて準備する。	④ 教育実践例報告会を全学レベルで開催し、各学科の優れた取り組みを共有する。	④ 教育実践例報告会(12/5)を開催し、両キャンパスの優れた取り組みを共有した。	⑤ JABEE審査結果を有効に活用するために、教育方法等の改善について、検討を行っている。 機関別認証評価に向けて学校の教育目的の見直しを行い、一般教育科、各専門学科及び専攻科の教育目的を設定した。その教育目的を達成するための学習教育目標を各学科で設定し、各学習教育目標を達成する教科を設定してその達成確認方法を明確にした。 次のPDCAを回す「教育の質の向上及び改善を行うシステム」を構築した。 (1)前年度末にシラバスを作成(plan) (2)講義日誌に授業内容を記録(do) (3)各科目の学習到達目標達成を確認。 各学科(教科)での相互評価(check) (4)次年度のシラバスに反映(act)	A	A
				A	A
				A	A
⑥ キャリアサポートセンターを中心に、インターンシップ参加のためのシステムの充実や学生への啓発活動、企業への働きかけを行う。 インターンシップ参加学生を増やすために、各キャンパスのインターンシップ受け入れ可能な企業名、インターンシップに行った企業名、実施報告会等の情報を開示する。	⑦ 「企業技術者等活用プログラム」、「ものづくり分野の人材育成事業」を実施する。 現役ICT企業技術者を活用して学生のソフトウェア開発能力を向上させ、地域連携に結び付ける。 香川高専テクノフォーラムの立上げに取組み、高専出身者で企業退職者の人材活用を検討する。	⑦ ⑥ キャリアサポートセンターを中心に学生への啓発活動、企業への働きかけを行い、インターンシップ参加者数の増加に努めた。(H22:205人→H23:222人) 本科3年生を企業合同説明会に参加させ、インターンシップ企業とのマッチングを行った。 インターンシップ受け入れ可能企業、インターンシップに行った企業名の情報をHPIに掲載した。	⑧ 平成24年度中国四国地区高専専攻科研究交流会開催に向けて準備を行った。	S	S
				A	A
				A	A
⑦ 「企業技術者等活用プログラム」、「ものづくり分野の人材育成事業」を実施する。 現役ICT企業技術者を活用して学生のソフトウェア開発能力を向上させ、地域連携に結び付ける。 香川高専テクノフォーラムの立上げに取組み、高専出身者で企業退職者の人材活用を検討する。	⑧ 平成24年度中国四国地区高専専攻科研究交流会開催に向けて準備する。	⑧ ⑦ 「企業技術者等活用プログラム」事業(高専機構)を積極的に活用した。(高松:CADⅡ、卒業研究等における学生指導、読書:工学実験、卒業研究等における学生指導) また、「ものづくり分野の人材育成事業」(全国中小企業団体中央会)において「電子技術」と「機械設計」の2コースを両キャンパスで開講し、企業技術者に講習を行った。 現役ICT企業技術者を活用して学生のソフトウェア開発能力を向上させ、地域連携に結び付けるAndroid講習会を実施した。 「多くの市民が気軽に科学技術にふれあえる場」の提供をめざした香川高専テクノフォーラムを12件開催した。3月には年間活動報告を行った。	⑨ 平成24年度中国四国地区高専専攻科研究交流会開催に向けて準備を行った。	A	A
				A	A
				A	A

平成23年度 年度計画		平成23年度 実績報告		自己評価	
⑧ 鹿児島大学で開催予定の平成23年度全国高専教育フォーラムに積極的に参加する。 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスドコース)を実施する。		⑧ 8/23～25に鹿児島大学で開催された平成23年度全国高専教育フォーラムに参加した。(教員13人、技術職員1人)	B	A	
		長岡技科大戦略的技術者育成アドバンスドコースに参加し、協働科目Ⅰとして「技術科学フロンティア概論」と「技術者のための英語」の2科目を開講した。(担当教員 4人、受講学生 13人)	A		
⑨ 両キャンパス間のインターネット環境を活用し、e-Learningなどのコンテンツを開発する。 引き続き、e-Learningによる「創造性豊かな実践的技術者育成コース」を利用した授業を行う。 教員にe-Learningサーバの利用を促す講習会等を行う。		⑨ 両キャンパス間のインターネット環境を活用し、e-Learningなどのコンテンツを開発中である。	B	B	
		e-Learningによる「創造性豊かな実践的技術者育成コース」を利用した授業を情報通信工学科4年生を対象に18時間行なった。	A		
		インターネット環境を活用し、WebClassを利用した講習会(12/6)を実施した。	B		
(5)学生支援・生活支援等 ① 教職員を対象にしたメンタルヘルス講習会を実施する。 学生対象に「薬物乱用防止」「飲酒喫煙防止」「自殺防止」に向けた講習会を実施する。 平成24年度の全面禁煙に向けてタバコの有害性について徹底した周知に努める。 二輪車の交通安全教室や、携帯電話・ネット安全教室を開催する。		(5)学生支援・生活支援等 ① 教職員を対象とした「メンタルヘルス講習会」(2/14)を実施した。 また、教育・心理検査Hyper-QUを1～3年生までの全学生に対して実施した。	A	A	
		学生対象の「飲酒喫煙防止講習会」(10/12)、「薬物乱用防止講習会」(11/24)、「自殺予防講習会」(12/14)を実施した。	A		
		4月に全教室に喫煙の害に関するポスターを掲示し、11月に平成24年4月から校内全面禁煙となることを示す掲示を行うとともに、喫煙防止講習会(12/12)を実施した。	A		
		「二輪車安全運転講習会」(9/28)、「携帯電話・ネット安全教室」(6/15)を実施した。	A		
② 図書館及び寄宿舎や宿泊できる施設の実態を踏まえた整備を行う。 詫間キャンパスにおける寄宿舎1棟の取り壊しが認められたので、寄宿舎2棟、3棟、4棟の改修整備に向けて具体的な計画を策定する。		② 検索システムの改善、英語多読図書、TOEIC及び英検問題集を収集するなど、利用者のニーズに対応した。	S	S	A
		両キャンパスの生活環境に差が生じないように、戦略的に寄宿舎の耐震改修、寮室へのエアコン設置とインターネット利用環境を整備した。 1棟取り壊し後の跡地の有効利用を図るため、コンベ形式による学内施設整備プロジェクトを立ち上げた。このプロジェクトは、広く学内外から募集し、今後の学内整備計画作成に役立てることが目的である。 寄宿舎2棟の耐震改修を年次計画で実施している。 昨年度に引き続き、詫間キャンパス図書館の空調設備改修を行った。 スーパー高専としての高松、詫間の図書館の在り方について、情報ネットワークとの融合も視野に入れ、委員会設置を計画している。	S		
③ 各種奨学金に関する情報は、HPや香川高専だより、教室掲示を通して学生に迅速に周知する。		③ 各種奨学金に関する情報は、香川高専だより、教室掲示を通して、学生に迅速に周知するよう改善した。 特に、各種奨学金の説明会開催前には、電子掲示板、教室掲示、校内放送で周知の徹底を図っている。	A	A	
④ キャリアサポートセンターによる企業情報、就職・進学情報などの提供体制を充実させる。 各キャンパスに求人に来ている企業名など(求人票一覧)、就職内定企業の情報を開示する。		④ キャリアサポートセンターを通じて、両キャンパスの企業、就職・進学情報等の提供体制を充実させた。 企業から寄せられた情報は、香川高専HP(学内限定)に掲示及び担任へメールで周知している。	A	A	
(6)教育環境の整備・活用 ① 施設・設備の老朽化状況を把握し、施設・設備の計画的な更新を図る。		(6)教育環境の整備・活用 ① 現時点での施設・設備の老朽化状況について把握するとともに、計画的に更新を図るために中長期の施設整備年次計画を策定して施設整備概算要求、営繕要求を行った。 本年度は営繕事業により建設環境工学科棟1階の内部改修(年次計画)、管理棟等内部改修(年次計画)、詫間寄宿舎3棟の空調電源整備、寄宿舎2棟の耐震改修(年次計画)、図書館1階空調設備改修(年次計画)等、教育環境整備を行った。 省エネについては、計画的に窓の複層ガラス化、高効率トランスに更新、給湯設備改修を行った。またハード面の強化だけでなく待機電力調査等ソフト面でも対応した。	A	A	A
		② 実験・実習や教育用の設備の導入計画について、設備整備更新年次計画を策定した。 両キャンパスの施設の耐震化、校内の環境保全については、年次計画により計画的に実施した。	A		
		③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、引き続き安全管理のための講習会を実施する。	A		

平成23年度 年度計画		平成23年度 実績報告		自己評価	
2 研究に関する事項 ① 全国高専テクノフォーラムなどで研究成果を積極的に発信する。 JST新技術説明会、セミコンジャパン、イノベーションジャパン等の研究成果を公開できる展示会、発表会へ参加する。 科学研究費補助金等外部資金獲得のためのガイダンスを実施する。 外部資金獲得のための有効な方策等を検討・実施する。 橋の老朽化対策研究会活動を中核として、全国高専建設系学科を有する高専の教員と研究協力する体制を確立する。	2 研究に関する事項 ① 全国高専テクノフォーラム(8/4)、産学官連携推進会議(9/21、22)、イノベーションジャパン(9/21、22)、高専機構新技術説明会(7/5)などで、研究成果を積極的に発表した。 科学研究費補助金説明会(9/28、29)を開催し、校長から科学研究費補助金に申請することが教員にとって義務であることについて説明し、申請を促した。 全国高専建設系学科を有する高専の教員と情報共有等を行うため、橋の老朽化対策研究会HPを6月に開設した。 また、8月に第2回橋の老朽化対策研究会を香川高専において開催し、研究会会員9高専15教員が活動紹介や意見交換を行った。 この活動を基に、H23.12.7 高専機構と(独)土木研究所は連携協力の推進に関する協定を締結した。	S A S S	S A S S	S A A A	A
② 四国地区高専、県内大学高専合同シーズ発表会などを開催する。 高専シーズを活用した共同研究など産官学連携事業を推進する。 四国地区高専で共同して、四国地区内での教員シーズや知的財産シーズの共有と企業とのマッチングを促進する仕組みを検討する。 A-STEPへの申請を促す。	② 四国地区高専シーズ発表会(8/23～8/27)、県内大学高専合同シーズ発表会(9/14)を開催した。四国地区高専シーズ発表会は、TV会議システムにより、四国5高専で同時に聴講できるように配信した。 四国地区高専知財紹介シート集を発行して、高専シーズを活用した共同研究など産官学連携事業を推進した。 香川高専を拠点とする四国地区高専地域イノベーションセンターで作成した「知的財産紹介シート集」(第2版)を、四国地区内の企業や知的財産シンポジウム(徳島)等で配布・広報した。 「知的財産紹介シート集」(第3版)は3月に発行した。 A-STEPについての説明会や外部資金獲得について、コーディネーターから四国地区5高専の教員に申請を促すなどの対策を行っている。(申請:17件、採択2件)	S A A A	S A A A	A A A A	A
③ 学生、教職員への知的財産教育を行い事業化可能な知的財産取得を推進する。 学生向けの知的財産講習会等を行う。	③ 学生、教職員を対象として、外部講師による知的財産に関する講演会(1/26、2/28)を実施し、学生・教職員の事業化可能な知的財産取得を推進した。 知財取得の際に証拠となるラポノートを学生の卒業研究ノートとして導入した。 学生向けの発明コンテストを実施し、学生の知財への意識高揚を図るとともに、知的財産権取得に向けて取り組んだ。 7/14に学内で公募を行い、審査会を経て10/13に表彰を行った。	A A A A	A A A A	A A A A	A
3 社会との連携、国際交流等に関する事項 ① 地域人材開発本部、みらい技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの体制の充実を図る。 四国地区高専地域イノベーションセンターを通して、四国地区高専で連携できる仕組みを構築する。 三豊市や企業との産学官連携ネットワークを構築し、地域の活性化を図る。 企業等との連携のためのイブニングセミナーなどを行う。 施設機器の開放の制度整備に取り組む。	3 社会との連携、国際交流等に関する事項 ① 地域人材開発本部等の印象を高めることを目的として製作したロゴを、印刷物やHPで利用を開始した。 また、地域人材開発本部、みらい技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの体制、施設及び活動内容を広報するため、パンフレットを作成した。 四国地区高専地域イノベーションセンターが主体となり、四国地区高専シーズ発表会を開催した。(8/23～8/30) 四国地区高専生命倫理委員会を9/6(審査件数、2件)、3/29(審査件数、3件)に開催し、審査内容はHPで公開した。 三豊市、香川銀行との連携協定に基づき、徳島・香川トモニ市場(東京有楽町)で「みっちゃん・とよさん」の冷茶接待のほか、三豊市の特産品の販売等を共同で行うなどの活動を通して、地域の活性化に貢献した。 大学教育推進プログラム「学生主体のベンチャー創出プログラム」の目的である、学生・教職員・地域一体となった高専発ベンチャー創出達成のため、教員を代表者とした会社(合同会社アーク)を設立(3/9)した。 企業等との連携のためのイブニングセミナー(6/8、9/28、11/30、1/25)や信号処理研究会(5/14、7/23、2/17)を開催した。 施設機器の開放の制度整備を行うため、規程等を策定中である。	A A S S A	A A S S A	A A S S A	A
② 香川高専HP、ICTオープンキャンパスや技術シーズ集などの印刷物で研究成果を定期的に公開する。 香川高専HPに、みらい技術共同教育センター並びに地域イノベーションセンターの活動をより詳細に掲載する。	② 香川高専HPで技術シーズや知的財産紹介シート集を公開するとともに、各種講習会の案内を掲示した。 みらい技術共同教育センターと地域イノベーションセンターの活動をより詳細にリアルタイムに掲載するため、HPの見直しを行った。	A B A S	A B A S	A B A S	A
③ 小・中学校への出前授業等をより積極的に実施し、その取組事例の情報発信に努める。 情報発信に香川高専HP、ICTオープンキャンパスを利用する。 コミュニティセンター等でのイベントに参加する。 みとよ青少年発明クラブのサポートを推進する。	③ 小・中学校への出前授業を5件、コミュニティセンター等へのイベントに30件参加し、その取組については、香川高専HPやICTオープンキャンパスで紹介した。 小学生を中心とした「みとよ青少年発明クラブ」が5月18日に「NPOみとよ発明キッズ」と改名され、みらい技術共同教育センターはNPOみとよ発明キッズの携帯電話メール双方向情報発信システムの改良を行うなど、引き続きその活動に支援・協力した。	A S A S	A S A S	A S A S	A
④ 小・中学生、社会人及び企業技術者などそれぞれのニーズに対応した公開講座や出前講座などを実施する。 県・市との連携による講座について、継続して充実を図る。 地元の組込み技術者を対象とした、組込み技術者セミナーを開催する。 各種媒体を活用して地域への情報発信に努める。	④ 社会人及び企業技術者などそれぞれのニーズに対応した公開講座や出前講座(FPGA回路設計・株ヒューテック)などを実施している。 県・市との連携による講座(脳きり教室 7件、三豊市知名度向上プロジェクト 3件、香川県(地域イノベーション戦略支援プログラム) 1件)について継続して実施し、内容の充実を図った。 地元の組込み技術者を対象とした、組込み技術者セミナー(基礎コース 10/13、14、21 実力養成コース 12/15、16 リーダーコース 2/9、10)を開催した。 香川高専HPやICTオープンキャンパスへの掲載、地元新聞などへの積極的な情報提供を行い、地域への情報発信に努めた。	A A S B	A A S B	A A S B	A

平成23年度 年度計画	平成23年度 実績報告	自己評価		
⑤ 同窓会総会に教員も積極的に参加して連携を深める。 ホームカミングデーを開催する。 同窓会に働きかけ、会員相互のネットワークの構築を支援する。	⑤ 同窓会総会(高松9/17, 詫間7/30)に教員も積極的に参加して交流を深めた。	A	A	
	ホームカミングデーを11/5・6に開催した。	A		
	同窓会に働きかけ、会員相互のネットワークの構築について検討を開始した。	A		
⑥ 国際シンポジウムを開催することなどにより海外の教育機関との学術交流を推進する。 海外交流協定校へのインターンシップ派遣並びにインターンシップ受け入れについて検討する。	⑥ 5/21・22に国際シンポジウム「GEE2011」を開催した。 シンポジウムには、国内外の環境地盤工学に関する研究者45名及び本校教員・学生33名が参加し、学生も研究発表を行った。	S	S	
	7/11～15の間、協定校の東洋未来大学から教員2名及び学生6名が訪問し、合同研究発表会や意見交換などの交流を行った。 また、期間満了及び両校名称変更により、協定の再締結を行った。	S		
	環境と福祉の理工学の発展に寄与する目的で12/10,11に開催された日台青少年シンポジウムに、学生4名及び教員2名が参加した。	A		
	7/1～10/31の間、協定校のマラ工科大学の学生2名を、特別聴講学生として受入れた。学生2名は、(株)四電技術コンサルタントでインターンシップを実施した。 10/31に研修報告会を行い、在校生との交流を深めた。 11/7に国際学生交流プログラム修了式を行った。 協定校との学術交流を推進するため、国際交流委員を正修科技大学(3/22, 23), マラ工科大学(3/26, 27)へ派遣した。	S		
	⑦ 地域が開催する各種イベント(日本語弁論大会・伊方発電所見学など)に留学生が参加した。	A		
⑦ 各種イベントに留学生に参加してもらい、留学生と日本人学生、留学生と地域社会との交流を推進する。 私費留学生など外国人留学生受入拡大に向けた環境整備の充実ならびに実施体制に関する検討を進める。	地元留学生支援団体の参加を得て、両キャンパス合同の留学生交流会を年2回開催し、両キャンパスの学生交流を推進した。	A	A	
	国費、マレーシア政府派遣、私費留学生の女子留学生を受け入れるための施設整備として、高松キャンパス女子学生寮に補食談話室を整備した。	A		
	⑧ 留学生見学旅行を実施する。 四国地区高専外国人留学生交流活動に参加する。	A		
⑧ 留学生見学旅行を実施する。 四国地区高専外国人留学生交流活動に参加する。	⑧ 留学生見学旅行(1/28)を実施した。	A	A	
	四国地区高専外国人留学生交流活動(12/17)に留学生12名が参加した。	A		
4 管理運営に関する事項	4 管理運営に関する事項			
①-1 両キャンパス一体となったスケールメリットを生かして、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	①-1 校長のリーダーシップの下で校長裁量経費を前年度から3,410千円増額させ、戦略的に重点配分した。 (H22年度: 26,093千円, H23年度: 29,503千円)	A	A	
①-2 リスク管理室を設置するなど、内部統制の充実・強化を図る。	①-2 平成23年5月26日付けでリスク管理室を設置した。	A		
② 事務組織の見直しを検討する。 平成22年度に作成した防災マニュアルを東日本大震災を受けて、より精緻化に努める。 IT資産管理システムにより、ソフトウェア管理を適正かつ効率的に行う。	② 情報セキュリティ担当の専門員の配置を行った。 施設課の体制の見直しを行った。	A	A	A
	東日本大震災を受けて、香川高専災害時対応マニュアルの見直しを行っている。今年度は緊急連絡網を整備した。 また、教職員の緊急連絡先を把握するための「緊急連絡先届」を制度化した。	A		
	教職員に対してIT資産管理システム導入の説明を行い、各パソコンにエージェントを導入し、ソフトウェア管理を行う体制整備を行った。	A		
③ 事務職員や技術職員の研修会参加を推進する。	③ 四国地区高専技術職員研修・技術発表会(8/11, 12)に参加した。	A	A	
	また、機構本部や人事院、地域高専間、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)主催の研修会等に積極的に参加した。	A		
④ 事務職員及び技術職員については、国立大学や高専間の人事交流を図る。	④ 事務職員及び技術職員について、国立大学や高専間の人事交流を実施した。	A	A	
5 その他 学年進行にあわせて、施設・設備の整備及び両キャンパスの教職員の配置を適切に行う。	5 その他 施設・設備の整備及び両キャンパスの教職員の人事交流について計画・実施した。	A	A	A
	高度化再編に伴う詫間キャンパス第二学科棟のみらい技術共同教育センターの施設設備の整備を計画的に行った。	A		
	寄宿舎第3棟の空調電源整備に伴う暖房用ボイラーの廃止、図書館の空調機の更新による高効率化及び変圧器の更新等の省エネ機器導入により省エネ化を図った。	A		
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置			
スケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行うとともに、業務の効率化を図り、経費の節減に努める。 契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図る。 高専間相互監査を実施し、入札及び契約の適正な実施についてチェックを行う。随意契約については見直しを継続する。	校長のリーダーシップの下で校長裁量経費を前年度から3,410千円増額させ、戦略的に重点配分した。(H22年度: 26,093千円, H23年度: 29,503千円) 契約に当たっては、規則に定められている金額以上はすべて一般競争入札によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図った。 高専間相互監査を実施し、入札及び契約の適正な実施についてチェックを行い、適正であることを確認できた。随意契約については継続して見直しを行った。	S	S	S

平成23年度 年度計画	平成23年度 実績報告	自己評価		
Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画 1 収益の確保, 予算の効率的な執行, 適切な財務内容の実現 共同研究, 受託研究, 奨学寄附金, 科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み, 自己収入の増加を図る。	Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画 1 収益の確保に努めるとともに, 予算の収支計画, 資金計画について検討し, より効率的な執行に努めている。 科学研究費補助金説明会を開催し, 申請を促した。	A	A	A
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 教育研究の推進や学生の福利厚生の改善のために必要な施設設備の新設, 改修, 増設等を計画的に進める。	Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 施設整備の新設・改修・増設について整備計画を策定し, 実施している。	A	A	A
2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに人事交流を進め, 多様な人材の育成を図るとともに, 各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。	2 人事に関する計画 (1)方針 両キャンパスの全教職員を対象としたFD・SD研修会(7/26)を実施した。研修会では, 統合後の検討課題を抽出し, 教職員が解決に向けて議論した。この研修会は来年度も継続して実施する。 また, 研修会の報告書を作成し, 全教職員に配付した。	A	A	
(2)人員に関する計画 常勤職員について, その職務能力を向上に努めるとともに, 事務組織の見直しや電子化, アウトソーシング等により事務の効率化を図る。	(2)人員に関する計画 常勤職員については, 計画的に研修の機会を与え, その職務能力の向上に努めるとともに, 事務組織の見直しや電子化, アウトソーシング等により事務の効率化を図っている。	A	A	

香川高等専門学校 平成24年度 年度計画

(独)国立高等専門学校機構	香川高等専門学校
平成24年度 機構年度計画	平成24年度 弊校年度計画
独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第31条の規定により、平成21年3月31日付け20文科高第8039号で認可を受けた独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という)の中期目標を達成するための計画(中期計画)に基づき、平成24年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。	香川高等専門学校(以下「香川高専」という。)の中期計画に基づき、平成24年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置
1 教育に関する事項	1 教育に関する事項
(1)入学者の確保 ① 全日本中学校長会、地域における中学校長会などと連携を深め、国立高等専門学校(以下「高専」という)への理解を促進するとともに、マスコミ等を通じ広く社会に向けて高専のPR活動を行う。 また、高専制度創設50周年記念事業に際して、公私立の高等専門学校協会と連携し、各種広報活動を行う。	(1)入学者の確保 ① 前年度の実施状況を参考にして、後援会と連携した入学案内等の配布など、積極的な広報活動を行う。 各中学校で実施する高校説明会に参加する。 在校生が出身中学校を訪問するなど、積極的に香川高専をPRする。 中学生向けだけでなく、小学生あるいは保護者や一般市民もターゲットとして学外で開催される各種イベントに積極的に参加して、高専をPRする。 学習塾の講師とのネットワークを強化する。 香川高専創基70周年・高専創立50周年に向けて、同窓会組織と連携した各種広報活動を行う。
② 各高専における入学説明会、体験入学(オープンキャンパス)、学校説明会等の取組について調査し、その事例を各高専に周知するとともにその成果を分析する。 また、高専を卒業し産業界等で活躍する女性の情報等を盛り込んだ女子中学生向けのパンフレットの利活用を行うとともに、女子中学生対象の各高専における取組状況を調査し、事例を各高専と共有することで女子学生の志願者確保を推進する。	② 入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスを複数回開催するなど、PRの充実を図る。 各催し物の日程などを早期にホームページに掲載する。 女子学生の高専卒業後の進路調査結果をPR活動に活かす。 女子中学生を対象とした講演会や女子中学生向けHPを充実させる。
③ 中学生及びその保護者を対象としたパンフレットについて、各高専での利活用状況調査等を行い、その結果を踏まえた広報資料を作成する。 また、全国の中学生や保護者をはじめ、広く一般が閲覧できるWebコンテンツ及びDVDを制作する。	③ 中学生やその保護者を対象とした入学案内を作成する。 中学生向けの広報用DVDの配布、ICTオープンキャンパスを利用した広報活動及び本校の中学生向けWebコンテンツを充実させる。 小中学生向け公開講座や地域連携に係る各種イベント等を利用した積極的な広報活動を行う。 高専機構の作成した広報資料を有効活用する。
④ 高専教育にふさわしい人材を選抜できるよう、入試方法の改善方策について検討し、最寄地受験制度や複数校受験制度等について、実施可能なものから随時導入する。	④ 入学者の追跡調査などを行い、高専教育にふさわしい人材を確に選抜できるように推薦基準や選抜方法について検討する。 平成23年度に検討した平成25年度入学選考基準に基づき実施する。 岡山地区の学外試験場について受験生の利便性を考慮して会場の変更を検討する。
⑤ 各高専・学科における学力水準の維持のための取組を調査し、その事例を各高専に周知する。 また、入学志願者に係る調査結果の分析を踏まえ、とりわけ入学志願者が減少している高専・学科においては入学志願者の確保方策について検討し、改善を行う。	⑤ 入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等の改善や各種催し物の実施方法や内容について、アップデートにもものに刷新を図る。 入学者の減少した中学校を訪問して、情報収集に努める。 岡山地区、愛媛地区、徳島地区への広報活動を積極的に行う。
(2)教育課程の編成等 ① 再編した宮城・富山・香川・熊本地区の4高専における教育・研究体制の高度化を着実に進めるとともに、その他の各高専においてもそれぞれの特色や地域事情を踏まえ、学科構成や新分野の学科設置の在り方、専攻科の整備・充実の具体化に向け検討する。 また、平成21年度に実施したカリキュラムに関する調査結果、平成23年度のモデルコアカリキュラム(試案)の策定を踏まえ、高専に求められるニーズを踏まえたカリキュラム改革の在り方について引き続き検討し、高専におけるモデルコアカリキュラム(試案)適用に係る課題を検討する。	(2)教育課程の編成等 ① 学年進行中における教員配置、設備の更新等を計画的に行う。 専攻科の長期インターンシップの導入について、平成22年度に変更した専攻科教育課程表に基づく実績の積み上げを図る。 専攻科においてネイティブ教員による英語授業を引き続き実施する。 将来計画タスクフォースが提案した学科再編構想について、その実現性を全学的に検討する。 「モデルコアカリキュラム」に基づいて、本校のカリキュラムについて見直し検討を行う。
② 地域や学生のニーズに応じた弾力的な学科編成とするため、学科の大括り化やコース制の導入について、その具体化に向け、検討する。	② 地域や学生のニーズに応じた新学科、新分野、コース制及び学科再編の検討を継続的に行う。
③ 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」に関し、学生の学習到達度を測定するための各高専共通の「学習到達度試験」を実施する。また、その試験結果について公表を行う。「英語」については、各高専におけるTOEICの活用状況を調査し、その事例を各高専に周知する。	③ 低学年における基幹的な科目(数学、物理、英語)の教育課程について継続的に到達度を把握し、学力向上及び教育内容の改善に努める。 「数学」、「物理」については学習到達度試験の結果をもとに改善する。 「化学」については四国共通試験を四国高専拠点校として実施し、過去問や問題集を用いて得点向上に努める。 「英語」については、技術者として必要とされる英語力の涵養に努めるため、TOEIC、ACE テストなどの結果を分析し、それをもとに教育内容の改善に努める。さらに、英検等の英語資格試験を活用して英語学習の動機付けを行う。 英会話講座の充実を図る。

【1】(1)
(ii)入試広報の実施状況

【1】(1)
(iii)志願者確保のための特色ある取組

【1】(1)
(ii)入試広報の実施状況

【1】(1)
(i)入試制度見直しの検討状況

【1】(1)
(iii)志願者確保のための特色ある取組

【1】(2)
(ii)教育課程の改善を促す体制作り
(iv)学科編成や混合学級導入の検討状況

【1】(2)
(iv)学科編成や混合学級導入の検討状況

【1】(2)
(iii)学習到達度試験の活用状況等

平成24年度 機構年度計画	平成24年度 弊校年度計画	
④ 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価の調査を実施し、教員にフィードバックする。 また、卒業生アンケートを引き続き実施し、その結果を分析し各高専と共有する。	④ 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価を実施し、教員にフィードバックする。 全学統一の授業アンケートシステムを整備し、教育活動の改善と充実を図る。 卒業生による学校評価の実施について検討する。	【1】(2) (iv) 学科編成や混合学級導入の検討状況
⑤ 学生の意欲向上や高専のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校デザインコンペティション」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストを実施する。	⑤ 学生の創造性を育み、知的財産教育を推進するため、学内発明コンテストを開催する。 全国高専ロボットコンテスト、全国高専プログラミングコンテスト、全国高専英語プレゼンテーションコンテスト及び全国高専デザインコンペティションへの学生の参加を積極的に支援する。 学生の特許コンテストへの応募を支援する。 高専体育大会へ参加する学生を積極的に支援する。	【1】(2) (v) 社会奉仕活動や自然体験活動
⑥ 各高専におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動への参加実績や取組状況を調査・分析し、各高専に周知することで、その実施を推進する。	⑥ 他高専の取組状況などを参考に、現在実施している社会奉仕活動や自然体験活動に、より多くの学生が参加できる体制の整備について引き続き検討する。 新入生合宿研修で両キャンパスの交流がより深まるようプログラムを見直して実施する。	【1】(2) (v) 社会奉仕活動や自然体験活動
(3) 優れた教員の確保 ① 優れた教員を確保するため、各高専の教員の選考方法及び採用状況を踏まえ、高専における多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないようにする。	(3) 優れた教員の確保 ① 多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように、関係団体等を通じて教員の募集活動を行い、更なる多様な人材の発掘に努める。	【1】(3) (iv) 教員のキャリアパス形成の取組状況や体制作り
② 長岡、豊橋両技術科学大学との連携を図りつつ、「高専・両技科大間教員交流制度」を実施する。 また、高等学校、大学、企業等との任期を付した人事交流を行うための方策について検討する。	② 長岡、豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用する。引き続き、企業から任期を付して人材を受け入れる。 引き続き、四国地区高専間の教員人事交流を積極的に推進する。	【1】(3) (iii) 教員の能力向上に資する研修や取組
③ 各高専に対して、専門科目(理系の一般科目を含む)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者の採用の促進を図り、専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%をそれぞれ下回らないようにする。	③ 専門科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を採用時の条件とすることにより優れた教員の確保に努める。	【1】(3) (iv) 教員のキャリアパス形成の取組状況や体制作り
④ 男女共同参画社会の実現及び女性研究者の活躍推進のため、男女共同参画宣言を踏まえ、女性教員の積極的な登用及び女性教員の働きやすい環境の整備を進める。	④ 女性教員の積極的な登用に努める。 女性教員にとって働きやすい職場環境の整備について引き続き検討する。	
⑤ 教員の能力向上を目的とした各種研修会を企画・開催するとともに、全国高専教育フォーラム等で一般科目、専門科目の各領域ごとの高専間の連携を強化する。 また、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等への各高専の参加状況を把握し、派遣を推進する。	⑤ 高専機構の開催する各種研修会等に参加する。 全教職員が参加するFD・SD研修会を開催する。 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修等を積極的に活用する。	【1】(3) (iii) 教員の能力向上に資する研修や取組
⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。	⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰するとともに、国立高専教員顕彰に推薦する。	【1】(3) (v) 優れた教員の評価内容
⑦ 60名以上の教員を国内外研究員として派遣するとともに、各高専において、教員の国内外の大学等での研究又は研修への参加を促進する。	⑦ 教員の国内外の大学等での研究、研修及び国際会議参加に対し、旅費等の支援を行う。	【1】(3) (iv) 教員のキャリアパス形成の取組状況や体制作り
(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム ① 高等専門学校の特性を活かした教材や教育方法の開発を推進するとともに、開発した教材や教育方法をデータベース化し、各高専において利活用を推進する。	(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム ① 教育の質の向上に資する教材や教育方法の開発を進めるために必要な支援を行う。 遠隔講義システムの活用を図るとともに、e-Learning教材の開発に引き続き取り組む。	【1】(4) (ix) e-Learningの取組の充実
② JABEE認定プログラムの更新・拡充を行うとともに、教育の質の向上に努める。 また、在学中の資格取得について調査し、各高専に周知する。	② 在学中の資格取得を推進するために、資格を学修単位として認定する。 電子情報工学コースの平成24年度中間審査に備えて教育改善及び根拠資料の充実を図る。 学外の資格試験等の受験を推進し、受験者を支援するとともに資格取得状況について調査する。	【1】(4) (i) 在学中の国家資格取得の取組
③ サマースクールや国内留学等の高専の枠を超えた学生の交流活動を促進するため、特色ある取組を各高専に周知するとともに支援を行う。	③ 中国四国地区高専専攻科生研究交流会に積極的に参加し、他高専との交流を推進する。 学生を大阪大学へのインターン研修に参加させる。 平成24年度中国四国地区高専専攻科生研究交流会を開催する。	【1】(4) (iii) 高専の枠を超えた学生交流活動
④ 各高専の優れた教育実践例を、総合データベース「KOALA」を活用して収集・公表し、各高専における教育方法の改善を促進する。	④ 教育実践例報告会を全学レベルで開催し、各学科の優れた取り組みを共有する。 全国高専教育フォーラムで教育方法の改善の取り組みを発表する。	【1】(4) (vii) 教育実践例の収集・公表
⑤ 大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を計画的に進める。 また、各高専の教育の質を保つために、評価結果及び改善の取組事例について総合データベース「KOALA」で共有する。	⑤ JABEE審査結果を有効に活用するとともに、機関別認証評価の受審査の準備を行う。 自己点検評価の基礎資料となる年報を引き続き作成する。	【1】(4) (vii) 教育実践例の収集・公表
		【1】(4) (ii) インターンシップ参加実績と取組状況

平成24年度 機構年度計画	平成24年度 弊校年度計画	
⑥ 各高専におけるインターンシップへの取り組みを推進するとともに、産学官の連携による効果的なインターンシップの実施を推進する。 また、企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、各高専の教員を中心とする検討部会において、「共同教育」の標準例等教育方法の充実方策について検討を進めるとともに、取組事例を取りまとめ、周知する。	⑥ キャリアサポートセンターを中心に、インターンシップ参加のためのシステムの充実や学生への啓発活動、企業への働きかけを行う。 インターンシップ参加学生を増やすために、各キャンパスのインターンシップ受け入れ可能な企業名、インターンシップに行った企業名、実施報告会等の情報を開示する。 インターンシップ受け入れ企業と連携し、インターンシップ研修内容の比較調査を行い、研修内容の平準化について検討する。	【1】(4) (ii) インターンシップ参加実績と取組状況
⑦ 企業技術者等を活用した教育の現状について調査を行い、特色ある事例について各高専に周知するとともに、総合データベース「KOALA」で、各高専における企業技術者等の人材情報の共有化を推進する。	⑦ 企業人材を活用し、「企業技術者等活用プログラム」を引き続き実施する。 現役ICT企業技術者を活用して学生のソフトウェア開発能力を向上させ、地域連携に結び付ける。 香川高専テクノフォーラムの活動に、高専出身者で企業退職者の人材活用を推進する。	【1】(4) (viii) 企業人材を活用した教育体制
⑧ 技術科学大学を始めとする理工系大学との協議の場を設け、教員の研修、教育課程の改善、高専卒業生の継続教育などについて連携して推進する。	⑧ 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスコース)を実施する。	【1】(4) (v) 学学連携の推進
⑨ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門部会において、メディア教材の普及を図り、各高専での利活用を促進する。 また、各高専の校内LANなどの必要な情報基盤について、スケールメリットを活かした一括調達手法の導入を含め、戦略的かつ計画的に整備を進める。	⑨ 両キャンパス間のインターネット環境を活用し、e-Learningなどのコンテンツを開発する。 引き続き、e-Learningによる「創造性豊かな実践的技術者育成コース」を利用した授業を行う。 教員にe-Learningサーバの活用講習会等を行って、積極的な活用を促す。	【1】(4) (ix) e-ラーニングの取組の充実
(5) 学生支援・生活支援等 ① 各高専の教職員を対象としたメンタルヘルスに関する講習会を開催するとともに、「学生支援・課外活動委員会」において、各高専のニーズや経済情勢等を踏まえた学生に対する就学支援・生活支援を推進する。	(5) 学生支援・生活支援等 ① 学生相談室・ハラスメント相談室の教員を対象に「相談員の基礎知識、及び相談をうけた際の初期対応」(メンタルヘルス含む)に関する講習会を実施する。 学生対象に「薬物乱用防止」「喫煙防止」「自殺防止」に向けた講習会を実施する。 体育部学生・顧問教員対象のAED講習会を実施する。 二輪車の交通安全教室や、携帯電話・ネット安全教室を開催する。 低学年に学校生活アンケートを実施し、学生指導の充実に活用する。	【1】(5) (i) カウンセリング体制・学生相談体制
② 各高専の図書館及び寄宿舎の施設の実態調査とニーズ調査の結果を踏まえ策定した整備計画及び平成24年度整備方針に基づき、整備を推進する。 また、女子学生の志願者確保に向けて、女子寄宿舎等の整備を推進する。	② 図書館及び寄宿舎や宿泊できる施設の実態を踏まえた整備を行う。 詫間キャンパスにおける寄宿舎管理棟の部分改修整備を行う。 寄宿舎第2棟の改修を年次計画に従い、本年度も実施する。	【1】(5) (vii) 図書館や寄宿舎の施設整備計画の策定状況・整備状況
③ 各高専に対して各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、高専機構HPに高専生を対象とした奨学団体への情報を掲示する。 また、奨学金について、産業界から支援を得るための方策を検討する。	③ 各種奨学金に関する情報は、HPや香川高専だより、教室掲示を通して学生に迅速に周知する。	【1】(5) (iii) 生活支援について特色ある取組
④ 各高専における企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を調査し、各高専における取組状況を把握し、その事例を各高専に周知する。	④ キャリアサポートセンターによる企業情報、就職・進学情報などの提供体制を充実させる。 各キャンパスへの来訪企業の求人一覧や就職試験情報を開示する。 就活のための各種講座を企画し、就職支援の充実を図る。 専攻科、大学編入の推薦基準を見直し、専攻科の充実を図る。	【1】(5) (ii) 就学支援について特色ある取組
⑤ 平成23年3月に発生した東日本大震災により授業料等の納付が困難となった学生に対し、経済的理由により修学を断念することがないよう、授業料免除等の経済的支援を引き続き実施する。		
(6) 教育環境の整備・活用 ① 機構全体の視点に立った施設マネジメントの充実を行うとともに、施設・設備についての実態調査を基礎として、施設管理に係るコストを把握し策定した整備計画に基づき、メンテナンスを実施する。また、実験・実習設備等の老朽化等の状況を確認し、その改善整備を推進する。併せて、モデル校によるコスト削減状況のフォローアップを行う。	(6) 教育環境の整備・活用 ① 施設・設備の老朽化状況を把握し、施設・設備の計画的な更新を図る。	【1】(6) (i) 施設マネジメントに関する取組 【4】 (i) 共同利用スペースの創出など
② 産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全で快適な教育環境及び環境に配慮した施設の充実を行うため、施設の老朽度・狭隘化、耐震性、ユニバーサルデザインの導入状況、実験・実習設備等の老朽化等の実態を調査・分析するとともに、その結果を踏まえて策定した整備計画に基づき、整備を推進する。 また、平成22年度に策定した省エネ化対策方針に基づき省エネ化を推進する。 併せて、東日本大震災の影響による、電力需給の逼迫が予想されることから、節電への取組を行う。	② 産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や教育用の設備の導入計画について検討する。 施設の耐震化、校内の環境保全、寄宿舎の整備を計画的に進める。特に学内環境整備コンテストの結果を基に、構内の整備計画を策定する。 高度化再編整備計画に基づき第一講義棟の講義室を創造実験実習室に改修する。 学生実験の高度化、再編成に伴い、実験設備の更新を計画的に進める。	【1】(6) (iv) 施設の実態を踏まえた整備計画と整備状況 【5】 (i) "
③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を改訂したうえで配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、引き続き安全管理のための講習会を実施する。	【1】(6) (i) 施設マネジメントに関する取組
		【2】 (i) 外部資金獲得に向けた説明会実施等の取組

平成24年度 機構年度計画	平成24年度 弊校年度計画	
2 研究に関する事項 ① 全国高専テクノフォーラムや各種新技術説明会等の開催により、各高専における研究成果を発信する機会を設ける。また、各高専での科学研究費補助金等の外部資金獲得に関する調査を実施し、好事例の共有と活用を行う。	2 研究に関する事項 ① 全国高専テクノフォーラムなどで研究成果を積極的に発信する。 JST新技術説明会、セミコンジャパン、イノベーションジャパン等の研究成果を公開できる展示会、発表会へ参加する。首都圏で開催される展示会に教員シーズ等を発表する。科学研究費補助金等外部資金獲得のためのガイダンスを実施する。 外部資金獲得のための有効な方策等を検討・実施する。	[2] (i) 外部資金獲得に向けた説明会実施等の取組
② 研究成果を発表する各種機会を活用し、高専の研究成果について広く社会に公表するとともに「高専一技科大技術マッチングシステム-KNTnet-」、産学官連携コーディネーター等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。	② 四国地区高専、県内大学高専合同シーズ発表会などを開催する。 高専シーズを活用した共同研究など産学官連携事業を推進する。 四国地区高専で共同して、四国地区内での教員シーズや知的財産シーズの共有と企業とのマッチングを促進する仕組みを検討する。 A-STEPへの積極的な申請を促す。	[2] (ii) 知的財産の資産化に向けた取組
③ 長岡・豊橋両技術科学大学との連携のもとで設置された「スーパー地域産学連携本部」の活用により、各高専の研究成果の円滑な知的資産化を促進するとともに、昨年度構築した知的財産管理システムの運用を行い知的財産を有効かつ効率的に活用する。	③ 学生、教職員への知的財産教育を行い事業化可能な知的財産取得を推進する。 学生向けの知的財産講習会等を行う。 学内発明コンテストを実施し、学生の知財意識の涵養をはかるとともに、学生の知財出願を支援する。	[2] (ii) 知的財産の資産化に向けた取組
3 社会との連携、国際交流等に関する事項 ① 「地域共同テクノセンター」などの効果的な整備を促進するとともに、地域社会との連携の中心として機能するよう、利用状況等について調査を行い、各高専に分析結果を周知する。	3 社会との連携、国際交流等に関する事項 ① 地域人材開発本部、みらい技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの体制の充実を図る。 四国地区高専地域イノベーションセンターを通して、四国地区高専の連携を推進する。 三豊市や企業との産学官連携ネットワークを構築し、地域の活性化を図る。 企業等との連携のためのイブニングセミナーなどを行う。 引き続き、組み込み技術者セミナーなどを開催し、地域技術者育成に貢献する。 施設機器の開放の制度を整備し、公表する。	[3] (iii) 地域共同センターの利用状況
② 「高専一技科大技術マッチングシステム-KNTnet-」や産学官連携コーディネーターを活用し、高専のもつ技術シーズを地域社会に広く紹介するとともに、各高専における教員の研究分野や共同研究・受託研究等の成果などの情報の広報活動について調査し、その事例を各学校に周知する。	② 香川高専HP、ICTオープンキャンパスや技術シーズ集などの印刷物で研究成果を定期的に公開する。 香川高専HPに、みらい技術共同教育センター並びに地域イノベーションセンターの活動をより詳細に掲載する。	[3] (ix) 研究分野や成果情報の広報活動状況
③ 小・中学校と連携した理科教育等の取り組みの実施状況について調査・分析し、結果を各高専に周知するとともに、特色ある取組については総合データベース「KOALA」を活用し各高専に紹介する。	③ 小・中学校への出前授業や公開講座をより積極的に実施し、その取組事例の情報発信に努める。 情報発信に香川高専HP、ICTオープンキャンパスを利用する。 地域やコミュニティセンター等でのイベントに積極的に参加協力する。 みとよ青少年少女発明クラブのサポートを推進する。	[3] (i) 連携した理科教育等の取組
④ 公開講座の参加者に対する満足度のアンケート調査を行うとともに、平成23年度の公開講座について満足度に関する傾向を分析し、各高専に分析結果を周知するとともに、特色ある取組およびコンテンツについては総合データベース「KOALA」を活用して各高専に周知する。	④ 県・市との連携による講座について、継続して充実を図る。 地元の組み込み技術者を対象とした、組み込み技術者セミナーを開催する。 各種媒体を活用して地域への情報発信に努める。	[3] (ii) 公開講座の実施状況
⑤ 各高専単位で構成されている同窓会同士の連携を強化するため、平成21年度に立ち上げられた「全国高専同窓会連絡会」の活動を支援する。また、卒業生とのネットワーク作りに関する取組状況を調査し、その事例を各高専に周知する。	⑤ 同窓会総会に教員も積極的に参加して連携を深める。 ホームカミングデーを開催する。 同窓会に働きかけ、会員相互のネットワークの構築を支援する。	[3] (xi) 卒業生ネットワーク作りと活用状況
⑥-1 海外の教育機関との学術交流を推進し、学術交流協定に基づく交流活動を充実させるとともに、海外交流のなかで特に優れた取組については、各高専に周知し、国際交流活動の活性化を促す。 特に、シンガポールのポリテクニクス5校(平成23年度締結更新)、タイのキングモンクット工科大学ラカバン(平成22年度締結)及び香港VTC(平成23年度締結)については、包括学術交流協定に基づく学生の長期・短期交流プログラムの実施について検討する。 また、JICAを通じた海外への新たな技術協力の可能性について検討する。	⑥-1 国際シンポジウムの開催や交流協定校等が主催する国際シンポジウム等への参加などにより、海外の教育機関との学術交流を推進する。 インターンシップ受け入れを推進する。	[3] (v) 交流協定進行中のもの
⑥-2 海外への留学を希望する学生を支援するため、日本学生支援機構(JASSO)の海外留学奨学金パンフレットを各学校に配布し、学生の海外奨学金情報を充実させる。また、全高専を対象に派遣学生を募集し、安全面に十分配慮した上で海外インターンシップを実施する。	⑥-2 国際交流協定校を中心とする学生のインターンシップ海外派遣について検討する。	[3] (vi) 学生の海外派遣についての取組
		[3] (vii) 留学生受け入れの強化について進行中のもの (viii) 留学生受入体制強化・居室整備

平成24年度 機構年度計画	平成24年度 弊校年度計画	
⑦ 留学生の受入拡大のために「アジアの学生の高専体験プログラム」の実施及び全高専による外国人留学生対象の3年次編入学試験を共同で実施し、英文パンフレット、HPを活用して、日本学生支援機構(JASSO)が実施する「外国人留学生のための進学説明会」に参加する等の広報に努めるとともに、必要な環境整備や私費外国人留学生のための奨学金確保等の受入体制強化に向けた取組を推進する。 また、全国共同利用施設として設置した留学生交流促進センターにおいて、留学生教育プログラムの企画を行うとともに留学生指導に関する研究会等を実施する。 さらに、施設面においても留学生の受入拡大に向けた寄宿舎等の整備を推進する。	⑦ 各種イベントに留学生に参加してもらい、留学生と日本人学生、留学生と地域社会との交流を推進する。 私費留学生など外国人留学生受入拡大に向けた環境整備の充実ならびに実施体制に関する検討を進める。 学術交流協定校と私費留学生短期受入れについて検討する。	[3] (vii) 留学生受け入れの強化について進行中のもの (viii) 留学生受入体制強化・居室整備
⑧ 各地区において、外国人留学生に対する研修等を企画し、実施する。	⑧ 留学生見学旅行を実施する。 四国地区高専外国人留学生交流活動に参加する。	[3] (vii) 留学生受け入れの強化について進行中のもの (viii) 留学生受入体制強化・居室整備
4 管理運営に関する事項 ①-1 機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	4 管理運営に関する事項 ①-1 両キャンパス一体となったスケールメリットを生かして、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	
①-2 機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。	①-2 機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。	
①-3 時宜を踏まえた内部監査項目の見直しを行い、発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。	①-3 内部監査において課題が発見された場合は、情報を共有し、速やかに対応を行う。	
①-4 機構本部及び各高専の緊急時の連絡体制の強化を行う。	①-4 平成23年度に制度化した「緊急連絡先届」の運用を確立し、緊急時の連絡体制の強化を行う。	
② 各地区校長会などにおいて高専の管理運営の在り方について検討を進めるとともに、新任校長を対象とした高専の管理運営に関する「新任校長研修会」、主事クラスを対象とした学校運営、教育課題等に関する教員研修「管理職研修」を実施する。		
③ 前期間中に実施した一元化業務の機構本部・高専間の業務分担及び事務処理方法の見直し、検討を行う。また、作成した「事務マニュアル」について、その内容の充実を行う。 また、IT資産管理システムにより、ソフトウェア管理を適正かつ効率的に行う。	② 事務組織の見直しを継続し、事務処理方法の見直し、検討を行い、事務の効率化・合理化を図る。 平成23年度に引き続き、香川高専災害時対応マニュアルの見直しを継続する。 IT資産管理システムの学内運用体制について構築を進める。	
④ 事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会を計画的に実施するとともに、国立大学法人、一般社団法人国立大学協会などが主催する研修会に参加させる。 また、職務に関して、特に高く評価できる成果が認められる事務職員や技術職員の表彰を行う。	③ 事務職員や技術職員の能力の向上を図るため、必要な研修会への参加を推進する。	
⑤ 事務職員及び技術職員については、国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。	④ 事務職員及び技術職員については、国立大学や高専間の人事交流を図る。	
⑥ 各高専の校内LANシステムや高専統一の各種業務システムなどの情報基盤について、情報セキュリティ対策を計画的に進める。 また、情報セキュリティ対策に必要な実施手順など取り組み体制についても、計画的に整備を進める。	⑤ 平成25年度に更新する校内LANシステムの情報セキュリティ対策を計画的に進める。 また、情報セキュリティ対策に必要な実施手順など取り組み体制についても、計画的に整備を進める。	
5 その他 平成22年4月より学生受入れを開始した仙台・富山・香川・熊本の4高専については、学年進行にあわせた施設・設備の整備計画に基づき整備を推進するとともに、教職員の配置を適切に計画する。	5 その他 学年進行にあわせて、施設・設備の整備及び両キャンパスの教職員の配置を適切に行う。 みらい技術共同教育センターの施設設備の完成化を図る。	
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。 また、各高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行うとともに、随意契約の見直し計画のフォローアップを適宜実施する。	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 スケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行うとともに、業務の効率化を図り、経費の節減に努める。 契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、企画競争や公募を行う場合においても競争性、透明性の確保を図る。 高専間相互監査を実施し、入札及び契約の適正な実施についてチェックを行う。 一般管理費縮減の見直しについて、検討を行う。 随意契約については、継続して見直しを行う。	[5] (vi) 一般管理費を縮減するため講じている具体的な取組

平成24年度 機構年度計画	平成24年度 弊校年度計画
Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画。) 1 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現 共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。 2 予算 別紙1 3 収支計画 別紙2 4 資金計画 別紙3 5 期間中 46,750百万円を支出する。 人件費の範囲は報酬(給与、賞与、その他の手当)であり、退職手当、福利厚生費(法定福利費及び法定外福利費)は含まない。	Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画 1 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現 共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。
Ⅳ 短期借入金の限度額 1 短期借入金の限度額 168億円 2 想定される理由 運営費交付金の受入の遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入することが想定される。	
Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 次の校外合宿研修施設についての譲渡に向けた手続きを進める。 ・長野高専・・・黒姫山荘の土地(建物含む)の全部 (長野県上水内郡信濃町大字野尻字黒姫山 3884-6、8,548㎡) ・鳥羽商船高専・・・京浜会館の土地(建物含む)の全部 (神奈川県横浜市神奈川区龜住9-1、594㎡)	
Ⅵ 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生の充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。	
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 施設・設備等の実態調査を踏まえて策定した整備計画に基づき、教育研究の推進や福利厚生の改善のための整備を推進する。 また、平成22年度に策定した省エネ化対策方針に基づき省エネ化を推進する。 併せて、東日本大震災の影響による、電力需給の逼迫が予想されることから、節電への取組を行う。	Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 教育研究の推進や学生の福利厚生の改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等を計画的に進める。 平成23年度同様、節電への取組みを推進する。
2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。 (2)人員に関する計画 常勤職員について、その職務能力を向上させるとともに、全体として効率化を図り、常勤職員の抑制をしつつ、国立高専の配置や学科構成並びに専攻科の在り方の見直しなどの高度化・再編・整備の方策の検討に応じて教職員配置の見直しを行う。	2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。 (2)人員に関する計画 常勤職員について、その職務能力を向上に努めるとともに、事務組織の見直しや電子化、アウトソーシング等により事務の効率化を図る。
3 積立金の使途 前期中期目標期間の繰越積立金(目的積立金相当部分)については、以下の事業の財源に充てる。 (1)学生寄宿舍の生活環境整備事業 (2)女子学生確保に資するための校舎整備事業	
4 平成23年3月に発生した東日本大震災により被災した施設の復旧整備を引き続き、着実に行う。	
(参考1) 平成24年度の常勤職員数 6,500人 (参考2) 平成24年度の人件費総額見込み 46,750百万円 人件費の範囲は報酬(給与、賞与、その他の手当)であり、退職手当、福利厚生費(法定福利費及び法定外福利費)は含まない。	

[5]
(ii)食堂等の福利厚生施設の施設整備計画と整備状況
(iv)震災の影響による節電の取組

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
【1・教育に関する事項】	(i)入試制度見直しの検討状況について具体的に記載ください。(選抜方法・基準等の変更、最寄り地・複数校受検制度、大括り入試などの検討・実施状況について)	④a) 入学者の追跡調査などを行い、高専教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように推薦基準や選抜方法について検討する。 ④b) 平成23年度に検討した平成25年度入学者選考基準に基づき実施する。 ④c) 岡山地区の学外試験場について受験生の利便性を考慮して会場の変更を検討する	★平成25年度入学者選考は、検討結果を十分に踏まえた新基準に基づき実施することが決定し、現在は、そのための準備を進めている。	
	(ii)入試広報の実施状況について記載ください。(学校説明会等イベント開催、リーフレット・DVD等資料作成、中学校等との連携、その他改善策等の実施・検討について。参加者数増減の理由等、効果の検証についても可能なかぎり記載)	①a) 前年度の実施状況を参考にして、講演会と連携した入学案内等の配付など、積極的な広報活動を行う。 ①b) 各中学校で実施する高校説明会に参加する。 ①c) 在校生が出身中学校を訪問するなど、積極的に香川高専をPRする。 ①d) 中学生向けだけでなく、小学生あるいは保護者や一般市民もターゲットとして学外で開催される各種イベントに積極的に参加して、高専をPRする。 ①e) 学習塾の講師とのネットワークを強化する。 ③a) 中学生やその保護者を対象とした入学案内を作成する。 ③b) 中学生向けの広報用DVDの配布、ICTオープンキャンパスを利用した広報活動及び本校の中学生向けWebコンテンツを充実させる。 ③c) 小中学生向け公開講座や地域連携に係る各種イベント等を利用した積極的な広報活動を行う。 ③d) 高専機構の作成した広報資料を有効活用する。	★小中学生80名が参加した施設見学バスツアーを実施した。 ★47中学校の高校説明会に参加し、募集説明を行った。 ★在校生67名が出身中学校50校を訪問し、近況報告と学校説明を行った。 ★市民イベントの会場で「香川高専科学体験フェスタ」を実施し、PRを行った。 ★14塾/教室を訪問し、募集説明を実施、6塾/教室に募集関係資料を送付した。 ★「学校案内2012」冊子を作成した。 ★小学生を対象とした公開講座「からくり工房2012」を実施した。 ★本校「サイエンスフェスタ」会場では、「香川高専紹介コーナー」を開設し、広報ビデオの放映/学校紹介資料を配布した。 ★「キラキラ高専ガール」「朝日中学生ウィークリー」「高専ナビ」を募集説明会会場/イベント会場/中学校訪問で配布した。 ★ICTオープンキャンパスのシステム管理について決定し、これからの取り組みについての検討に着手する。 ★教員には「報道依頼様式」を配付し、積極的な情報発信を促した。 ★総務・広報室で広報資料が有効活用されるための方策を検討する。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
	(iii) 志願者確保のための特色ある取組、高い成果を上げた取組(体制、取組み状況、具体的な成果等)について記載ください。(特に以下のものについては詳細に) ・女子学生志願者の確保に関する取組 ・志願者増減の理由の原因等の分析に基づいて行った取組(可能であれば理由も記載)	②a) 入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスを複数回開催するなど、PRの充実を図る。 ②b) 各催し物の日程などを早期にホームページに掲載する。 ②c) 女子学生の高専卒業後の進路調査結果をPR活動に活かす。 ②d) 女子中学生を対象とした講演会や女子中学生向けHPを充実させる。 ⑤a) 入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等の改善や各種催し物の実施方法や内容について、アップデートなものに刷新を図る。 ⑤b) 入学者の減少した中学校を訪問して、情報収集に努める。 ⑤c) 岡山地区、愛媛地区、徳島地区への広報活動を積極的に行う。	★新たに徳島県三好地区、愛媛県四国中央市地区を加え、入学説明会を5会場で7回実施、地区別学校説明会を8校区/会場で実施、2会場で体験入学を4回、オープンキャンパスを4回実施した。今後も適宜、実施予定をHPIに掲載する。 ★「土木女の会」と連携し、2回のオープンキャンパスの際、女子学生による女子中学生向け学校説明コーナーを開設した。 ★岡山地区27校、愛媛地区7校、徳島地区10校の中学校を訪問し、資料配布/学校説明/募集説明を実施した。	
	(i) 外部有識者や各学校の参画を得た調査研究の状況を記載してください。また、授業の内容変更等、具体的な成果があれば記載ください。		★学外有識者12名で構成される外部評価委員会を2月中旬に開催し、事業方針ないし客観的な学校評価をいただく予定である。	
	(ii) 教育課程の改善を促すための体制作りの推進状況を記載してください。特に、モデルコアカリキュラム(試案)への対応状況は、体制、取組み状況、年度末の達成状況等、具体的に記載してください。	①a) 学年進行中における教員配置、設備の更新等を計画的に行う。 ①b) 専攻科の長期インターンシップの導入について、平成22年度に変更した専攻科教育課程表に基づく実績の積み上げを図る。 ①c) 専攻科においてネイティブ教員による英語授業を引き続き実施する。 ①e) 「モデルカリキュラム」に基づいて、本校のカリキュラムについて見直し検討を行う。	★学年進行中における教員配置、設備の更新等は設置計画どおりに進めている。 ★インターンシップは、累積で45時間(1単位)を超える実績が増えており、100時間以上は3名、海外インターンシップに1名が参加し、単位認定方法を見直した。 ★専攻科授業科目「工業英語」(前期開講)でネイティブ教員による英語授業を実施した。 ★台湾の正修科技大より講師を招聘して英語による授業を予定している。 ★各学科においては、モデルコアカリキュラムと本校のカリキュラムの整合性の調査を開始した。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
(2) 教育課程の編成	(iii) 学習到達度試験の活用状況等について記載ください。	③a) 低学年における基幹的な科目(数学、物理、英語)の教育課程について継続的に到達度を把握し、学力向上及び教育内容の改善に努める。 ③b) 「数学」、「物理」については学習到達度試験の結果をもとに改善する。 ③c) 「化学」については四国共通試験を四国高専拠点校として実施し、過去問や問題集を用いて得点向上に努める。 ③d) 「英語」については、技術者として必要とされる英語力の涵養に努めるため、TOEIC、ACEテストなどの結果を分析し、それをもとに教育内容の改善に努める。 ③e) さらに英検等の英語資格試験を活用して英語学習の動機づけを行う。 ③f) 英会話講座の充実を図る。	★実施科目については、評価対象とすることを学生に周知し、意識付けを図ることで、学生の教育効果を上げており、学習到達度試験の結果を踏まえて、過去問の実施や授業に反映することが可能となった。 ★化学は四国共通テストを今年も行い、評価する。 ★TOEICは4月(約20人)、6月(約20人)、10月(約20人)であり、今後の予定では、12月(約20人)、1月(約160人)、2月(約60人)となっている。 ★5月に第1回ACEを1年生から3年生の約400人を対象に2週間にわたって実施しており、同じ学年を対象に第2回を25年1月実施の予定である。 ★英語検定は10月に本校を準会場として実施した。 ★英会話については「英語サロン」を希望学生を対象に毎週月、水曜日に毎1時間、ネイティブスピーカーを指導者として招き実施している。 ★ネイティブスピーカーによる英会話主体の工学実験を実施している。	
	(iv) 学科の大括り化やコース制の導入、地域や学生のニーズに応じた学科編成や混合学級の導入検討状況などを記載ください。	①d) 将来計画タスクフォースが提案した学科再編構想について、その実現性を全学的に検討する。 ②a) 地域や学生のニーズに応じた新学科、新分野、コース制及び学科再編の検討を継続的に行う。 ④a) 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価を実施し、教員にフィードバックする。 ④b) 全学統一の授業アンケートシステムを整備し、教育活動の改善と充実を図る。 ④c) 卒業生による学校評価の実施について検討する。	★将来計画検討のためのタスクフォースが地域の要請を勘案した学科改組案を検討し、県や香川高専産業技術振興会会長からの意見を伺った。2専攻7学科を2専攻2学科に再編整備する構想に伴い、新コース創設に対応できる施設整備のため、高松C施設整備将来計画WGを立ち上げて検討に着手した。 ★学科単位で、学生による授業評価アンケートの全結果を学科HPに公開し、教員及び学生へのフィードバックを行っているが、キャンパス単位では、前期末に実施、10月に評価結果に基づく学生との対話を実施し実施報告書を作成した。 ★新たに全学統一の授業評価アンケートの質問事項を統一したので、来年度から実施することが決まった。 ★専攻科生については、修了後1年を経過した者に対するアンケートの実施を予定している。 ★卒業生による学校評価の実施に向け、OBが参集するイベントの機会を利活用する検討を始めた。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊社平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して 実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
	(v)社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加実績や取組状況を記載ください。	⑤a) 学生の創造性を育み、知的財産教育を推進するため、学内発明コンテストを開催する。 ⑤b) 全国高専ロボットコンテスト、全国高専プログラミングコンテスト、全国高専英語プレゼンテーションコンテスト及び全国高専デザインコンペティションへの学生の参加を積極的に支援する。 ⑤c) 学生の発明コンテストへの応募を支援する。 ⑤d) 高専体育大会へ参加する学生を積極的に支援する。 ⑥a) 他高専の取組状況などを参考に、現在実施している社会奉仕活動や自然体験活動に、より多くの学生が参加できる体制の整備について引き続き検討する。 ⑥b) 新入生合宿研修で両キャンパスの交流がより深まるようプログラムを見直して実施する。	★「創造基礎実験実習Ⅰ」や「工学実験」の授業を通して、知的財産権に関する素養の育成をし、発明コンテストを開催した。 ★全国高専プログラミングコンテストへ学生がチャレンジするための支援を行い、優勝や企業賞を受賞した。全国規模のコンテストでの成績は、常に学生に披露し、学生表彰の対象とすることで、学生の関心と意識を高めており、デザインコンペに2チームが出場した。年明けの英語プレゼンコンにも出場が予定されている。 ★2012年度四国移動型＆自律型ロボット競技会(略称:SMART2012)へ学生の参加を支援し、発想の実現化やコミュニケーション能力のスキルアップに対してサポートした。 ★全国高専体育大会へ本校から12クラブが出場、参加選手を支援し、男子バレーボールは優勝を飾った。 ★地元の河川敷や近隣の海岸を定期的に清掃する社会奉仕活動をさせたり、地元警察署とともに秋の交通安全キャンペーンに参画させた。 ★大洲での新入生合宿研修では、両キャンパス混合チームによるスポーツプログラムを実施した。 ★集団活動指導者研修会は、両キャンパス合同で実施した。	現在実施している社会奉仕活動や自然体験活動に多くの学生が参加できる体制の整備の検討内容を記載して下さい。
	(i)教員を対象とした企業研修を実施、もしくは計画があれば記載してください。			
	(ii)教員を対象とした技術士会を利用した研修を実施、もしくは計画があれば記載してください。			

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して 実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
(3) 優れた教員の確保	(iii) 上記のほか、教員の能力向上に資する研修や取組があれば記載してください。	②a) 長岡、豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用する。 ②b) 引き続き、企業から任期を付して人材を受け入れる。 ②c) 引き続き、四国地区高専間の教員人事交流を積極的に推進する。 ⑤a) 高専機構の開催する各種研修会等に参加する。 ⑤b) 全教職員が参加するFD・SD研修会を開催する。 ⑤c) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修会等を積極的に活用する。	★大学や他高専との人事交流、企業からの出向者を受け入れ、本校教員の意識啓発を行っている。 ★7月に全教職員が参加するFD・SD研修会を実施した。12月には、教育実践事例報告会を開催する。 ★8月に四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する講師派遣プログラム「高専生を元気にする学生指導法のコツ」を活用し、班別討議形式の研修を行った。	
	(iv) 優れた教員の確保及び教員のキャリアパス形成のための取組み状況、体制作り等を記載してください。	①多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように、関係団体等を通じて教員の募集活動を行い、更なる多様な人材の発掘に努める。 ③専門科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を採用時の条件とすることにより優れた教員の確保に努める。 ⑦教員の国内外の大学等での研究、研修及び国際会議参加に対し、旅費等の支援を行う。	★多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように、関係団体等を通じて教員の募集活動を行い、更なる多様な人材の発掘をしている。 ★人事委員会では、専門科目について、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目について、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を採用時の条件としている。 ★教員の国内外の大学等での研究、研修及び国際会議参加に対しては、校長裁量経費によって旅費等の支援を行っている。	
	(v) 優れた教員として評価したことについて、その内容(教員名、評価内容等)を記載してください。	⑥教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰するとともに、国立高専教員顕彰に推薦する。	★国立高専教員顕彰の一般部門と若手部門に各2名の4教員(岡野寛:化学教育の向上、金澤啓三:人材育成の実践、逸見知弘:制御工学の試み、天造秀樹:創造推進活動の支援)を推薦した。	
	(vi) 女性教職員の採用について、具体的な取組があれば記載してください。		★女性限定で英語教員の公募を行い、1名を採用した。	
	(vii) 女性教職員のための環境整備(施設面)の実施状況(具体的な整備内容等)を記載してください。		★11月の企画運営会議で「男女共同参画推進会議」を立ち上げることを機関決定した。今後は、当該会議による制度設計に則り、ハード・ソフトの両面から各種具体の取組を策定し、本校における男女共同参画に向けた環境整備を推進する予定である。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して 実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
（４）教育の質の向上・改	（i）在学中の国家資格取得のため、具体的な取組があれば記載してください。	②a) 在学中の資格取得を推進するために、資格を学修単位として認定する。 ②b) 電子情報工学コースの平成24年度中間審査に備えて教育改善及び根拠資料の充実を図る。 ②c) 学外の資格試験等の受験を推進し、受験者を支援するとともに資格取得状況について調査する。	★資格取得が単位認定の対象となる資格の一覧を学生便覧に掲載し、学生の申告により所定の単位を認定しており、学生用掲示板には受験案内ポスターを適宜掲示している。 ★電子情報工学コースの平成24年度中間審査に備えた教育改善及び根拠資料を整備し、受審し、暫定評価では当初の目標を達成した。 ★デジタル技術検定、無線従事者国家試験、TOEICなどの学外試験を本校で実施するなど、学生の便宜を図っている。	
	（ii）インターンシップの参加実績や取組状況を記載してください。	⑥a) キャリアサポートセンターを中心に、インターンシップ参加のためのシステムの充実や学生への啓発活動、企業への働きかけを行う。 ⑥b) インターンシップ参加学生を増やすために、各キャンパスのインターンシップ受け入れ可能な企業名、インターンシップに行った企業名、実施報告会等の情報を開示する。 ⑥c) インターンシップ受け入れ企業と連携し、インターンシップ研修内容の比較調査を行い、研修内容の平準化について検討する。	★学生への情報提供は、学内限定で開示しているが、早期に意識付けするため、3年次の段階から企業人による出前授業の企画やインターンシップの意義に関する講座を開講した結果、本科227名、専攻科11名がインターンシップに参加した。 ★インターンシップの実施内容に不安のある企業に対しては、インターンシップ実施例を提示した。	⑥c) インターンシップ受け入れ企業と連携し、インターンシップ研修内容の比較調査を行い、研修内容の平準化について記載して下さい。
	（iii）サマースクールや国内留学などの高専の枠を超えた学生交流活動について、特色ある取組があれば記載してください。	③a) 中国四国地区高専専攻科生研究交流会に積極的に参加し、他高専との交流を推進する。 ③b) 学生を大阪大学へのインターンシップ研修に参加させる。 ③c) 平成24年度中国四国地区高専専攻科生研究交流会を開催する。	★今年度の専攻科交流会を本校主催で開催し、高専教員を含む400人以上が参加し、口頭発表、パネル発表を併せた発表件数が299件を数え、他高専との交流に寄与した。 ★3月の大阪大学インターン研修参加に向けて、準備をしている。	
	（iv）教員間連携や学学連携、産官学連携、共同教育などにより、高専の特性を踏まえた教材や教育方法の開発があれば、体制整備や活動状況、具体的成果を記載してください。			
	（v）学学連携のなかでも、特に技術科学大学を始めとする理工系大学との間で、教員の研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育などについて連携が推進があれば、体制整備や活動状況、具体的成果を記載してください。	⑧長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム（技術者育成アドバンスコース）を実施する。	★連携推進のため15名の教員に、長岡技科大が連携推進教員の辞令を交付し、実践的・戦略的技術者育成プログラム（技術者育成アドバンスコース）として、協働科目Ⅰ「技術科学フロンティア概論」を開講した。 ★コース履修学生は技科大のラボ実習/ラボ演習に参加、協働科目Ⅱ担当教員を技科大に派遣、連携推進シラバス会議に出席した。	
	（vi）学学連携、共同教育などにより、学校の枠を超えた学生の交流活動の促進が図られていれば記載してください。			多様な学術（学会）発表会や高専間の連携事業等も実施されており、次年度も含め、学生交流等をご検討下さい。

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して 実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
善	(vii)各学校における優れた教育実践例を収集・公表していれば記載してください。	④a)教育実践例報告会を全学レベルで開催し、各学科の優れた取り組みを共有する。 ④b)全国高専教育フォーラムで教育方法の改善の取り組みを発表する。 ⑤a)JABEE審査結果を有効に活用するとともに、機関別認証評価の受審査の準備を行う。 ⑤b)自己点検評価の基礎資料となる年報を引き続き作成する。	★12/4に教育実践例報告会を開催し、両キャンパスの優れた取り組みを共有する予定である。 ★フォーラムに数多くの教員が参加し、研究成果の発表を行った。 ★大学評価・学位授与機構の認証評価説明会に、3名が出席し、27年度受審に着手した。 ★年報2012を発刊した。	
	(viii)知識・技術を持った意欲ある企業人材を活用した教育体制を整備していれば記載してください。	⑦a)企業人材を活用し、「企業技術者等活用プログラム」を引き続き実施する。 ⑦b)現役ICT企業技術者を活用して学生のソフトウェア開発能力を向上させ、地域連携に結び付ける。 ⑦c)香川高専テクノフォーラムの活動に、高専出身者で企業退職者の人材活用を推進する。	★外部の専門技術者を招き、「Java」に関する講義を特別講義として実施、「電子情報工学応用実験」「卒業研究」においても、地元企業技術者の指導を受けている。 ★企業技術者等活用プログラムは概ね計画通り実施されており、現役ICT企業技術者を11月から雇用した。	
	(ix)e-ラーニングの取組の充実が図られていれば記載してください。	①a)教育の質の向上に資する教材や教育方法の開発を進めるために必要な支援を行う。 ①b)遠隔講義システムの活用を図るとともに、e-Learning教材の開発に引き続き取り組む。 ⑨a)両キャンパス間のインターネット環境を活用し、e-Learningなどのコンテンツを開発する。 ⑨b)引き続き、e-Learningによる「創造性豊かな実践的技術者育成コース」を利用した授業を行う。 ⑨c)教員にe-Learningサーバの活用講習会等を行って、積極的な活用を促す。	★高専改革推進経費による「主体的学びの推進に向けた高専型教育モデルの構築ー依存型学習から自立型学習への転換ー」プロジェクトへ参加、「無線工学演習」においては、e-Learning教材の開発、「基礎数学Ⅲ」の授業においては、e-Learningを活用した授業を実施中である。 ★「工学セミナーⅠ」において、「創造性豊かな実践的技術者育成コース」を利用した授業を行っている。 ★12月に高松C、3月に詫間Cにおいてe-Learningサーバの活用講習会を開催予定である。	
	(x)e-ラーニングの取組の成果において、外部もしくは内部からの高い評価があればその内容を記載してください。			
	(i)学生のメンタルヘルスについての取組(カウンセリング体制・学生相談体制等)を具体的に記載してください。	①a)学生相談室・ハラスメント相談室の教員を対象に「相談員の基礎知識、及び相談を受けた際の初期対応」(メンタルヘルス含む)に関する講習会を実施する。 ①b)学生対象に「薬物乱用防止」「喫煙防止」「自殺防止」に向けた講習会を実施する。 ①c)体育部学生・顧問教員対象のAED講習会を実施する。 ①d)二輪車の交通安全教室や、携帯電話・ネット安全教室を開催する。 ①e)低学年に学校生活アンケートを実施し、学生指導の充実に活用する。	★学生対象に「薬物乱用・喫煙防止」、「自殺防止」講習会といじめに関するアンケートを実施した。 ★4年生を対象に「自殺予防に関する講演会」を12月7日に、教職員に対して「学生の自殺予防に関する講習会」を2月中旬に実施する予定である。 ★体育部学生・顧問教員対象の「AED」講習会、「自転車の安全運転」「バイク安全運転」「携帯電話・ネット安全」講習会、警察による交通講話を実施した。 ★全教室等に禁煙のちらしを掲示、今後2年生を対象に覚せい剤・非行防止についての講演会、3年生を対象にタバコの害と禁煙に関する講演会、1年生を対象に性教育に関する講演会を予定している。 ★低学年の学生に対して、hyper-QUアンケートを実施して学生の満足度や悩みを調査し、学級担任の学生指導に活用した。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊社平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
(5) 学生支援・生活支援	(ii) 就学支援について特色ある取組があれば、具体的に記載してください。	④a) キャリアサポートセンターによる企業情報、就職・進学情報などの提供体制を充実させる。 ④b) 各キャンパスへの来訪企業の求人一覧や就職試験情報を開示する。 ④c) 就活のための各種講座を企画し、就職支援の充実を図る。 ④d) 専攻科、大学編入の推薦基準を見直し、専攻科の充実を図る。	★学内限定HPの情報を集約し、開示内容を充実させ、資料室で、学生が自由に閲覧できる空間を提供している。 ★10月以降、多数の就職支援講座や研修を企画し実施中である。 ★専攻科、大学編入のための推薦基準を見直し、GPAの尺度を導入した。	
	(iii) 生活支援について特色ある取組があれば、具体的に記載してください。	③各種奨学金に関する情報は、HPや香川高専だより、教室掲示を通して学生に迅速に周知する。	★各種奨学金に関する情報は、教室掲示を通して学生に迅速に周知するとともに、キャンパスだよりなどでも周知できるように改善に努めており、特に奨学金説明会の開催前には、電子掲示板と校内放送で、周知の徹底を図っている。	
	(iv) キャリア教育について特色ある取組があれば、具体的に記載してください。		★香川県労働政策課とタイアップした企業人による出前授業や香川県技術士会の協力を得た出前授業を実施した。 ★就活情報サイト運営会社やハローワークの協力を得て、各種講座を開催した。 ★企業合同企業面談会の開催を予定している。	
	(v) 就職支援について特色ある取組があれば、具体的に記載してください。		★4年生、専攻科1年生向けに2年間のスケジュール管理ができ、進路情報を網羅した進路手帳(就活手帳)を企画し、製作中である。	
	(vi) 要支援者(身体障がい・発達障がい等)への支援について具体的に記載してください。		★支援を要する内容や体制等について、学生相談室、保健室、各種委員会等で検討している。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して 実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
	(vii) 図書館や寄宿舎に関する施設整備計画の策定状況や、同計画に基づく整備状況(具体的な整備内容等)を記載してください。	②a) 図書館及び寄宿舎や宿泊できる施設の実態を踏まえた整備を行う。 ②b) 詫間キャンパスにおける寄宿舎管理棟の部分改修整備を行う。 ②c) 寄宿舎第2棟の改修を年次計画に従い、本年度も実施する。	★詫間C施設整備将来計画WGを立ち上げ、高松C図書館との整合性も併せ、平成26年度概算要求事項とする詫間C図書館改修及び寄宿舎を中心としたキャンパス整備計画を策定中である。また、高松C寄宿舎においては、防犯カメラ等セキュリティ強化及び自習・集会等多目的室の整備を年度内完成に向け整備を行うこととしている。 ★年次計画に基づいて、昨年度の(詫間)寄宿舎第1棟取り壊しによる既存の寄宿舎各建物との動線確保のため、寄宿舎管理棟の増築及び一部内部改修工事を施工しており、年度内に完成の予定である。 ★寄宿舎第2棟の改修を昨年度から7年次計画にて実施しており、本年度は1階の内部改修工事を施工している。また、当該2棟については緊急営繕にて外壁全面改修を年度内完成予定で発注準備している。 ★寮生の学力不振対策のため、本年度中に学習室の定員を40名程度から80名程度収容可能なものに改修して、1・2年生合同の学習会を実施できるようにする予定である。	
	(viii) 女子学生のための環境整備(施設面)の実施状況(具体的な整備内容等)を記載してください。(特に、女子寮の整備について)		★詫間C第一講義棟に女子学生増加に対応するため、1階東側に女子トイレを整備工事中であり、年内には完成予定である。なお、女子寮については、一昨年に策定した「詫間C学生寄宿舎整備計画」により将来的な整備計画を策定した。	
	(i) 施設マネジメントに関する取組を記載してください。	①施設・設備の老朽化状況を把握し、施設・設備の計画的な更新を図る。 ③学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、引き続き安全管理のための講習会を実施する。	★施設、設備の老朽状況について施設課の見地にて現状把握を行い、また、各学科部署からも施設修繕要望事項を募り、現地調査及びヒアリングを経て、軽微な修繕等は校内営繕にて対応し、又は老朽改善整備年次計画を策定し、概算要求及び営繕要求を行っている。	
	(ii) 施設整備に係るコスト縮減の取組を記載してください。		★本年度の営繕事業工事の実施設計にあたり、既設間仕切り壁をヒアリングを経て極力残置した設計としたことにより、コスト縮減及び建設廃棄物の抑制に努めた。	
	(iii) 実習工場の整備状況(具体的な整備内容等)を記載してください。		★暑さ対策のためにスポットエアコン2台とウォータークーラー1台を設置した。 ★年度末工事で工場棟一部の屋根を遮熱塗料を施す工事を予定している。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

		機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して 実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
(6) 教育環境の整備・活用	(iv)	施設の実態を踏まえた整備計画の策定状況や、同計画に基づく整備状況を記載してください。(特に、耐震化、老朽化対策、バリアフリー化等)	②a)産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や教育用の設備の導入計画について検討する。 ②b)施設の耐震化、校内の環境保全、寄宿舎の整備を計画的に進める。特に学内環境整備コンテストの結果を基に、構内の整備計画を策定する。 ②c)高度化再編整備計画に基づき第一講義棟の講義室を創造実験実習室に改修する。 ②d)学生実験の高度化、再編成に伴い、実験設備の更新を計画的に進める。	★限られた校内施設予算の有効な執行を図るため、各学科部署からの施設修繕要望事項に対し、本年度より現地調査及びヒアリングを経て、点数評価にて順位付けを行い、施設マネジメント委員会に諮り執行している。 ★未耐震建物である(詫間)武道場について、H25年度施設整備概算要求事業として要求を行った。 ★学内環境整備コンテスト結果の取りまとめを行い、校内プレゼンテーションを経て、年度内に実施設計が完了の予定であり、また、高松Cの正門周りについては、70・50記念行事までに整備を予定している。 ★高度化再編整備計画事業としていた(詫間)第一講義棟の講義室3室について、改修工事を施工しており、年内に完成予定である。 ★将来計画検討タスクフォースに積極的に関連部門が参画し、全学連携のうえ整備計画を策定する予定である。	
	(v)	H22年度に策定した省エネ化対策方針等に基づく省エネの取組を記載してください。(具体的な取組内容や温室効果ガス排出量削減効果等)		★高効率機器(空調機、照明器具、変電トランス)への更新及びオフシーズンにおける空調電源遮断並びに教職員・学生に対する省エネ意識啓発により、温室効果ガス排出量について、対基準のH16年度比でH22年度からH24年度の3年間で8%削減義務が課せられており、H22年度において5%削減、H23年度において15%を削減した。また、H24年度については、昨年度と同様、前年度比15%削減を目標としている。	
	(vi)	東日本大震災の影響による節電の取組を記載してください。	「Ⅶ. 1. (b)」平成23年度同様、節電への取組みを推進する。	★施設整備5ヶ年計画に位置付けし、本年度の施設設備に反映実行している。また、全学委員会において、対前年度比15%削減の節電目標がある。 ★今夏(7月～9月)については、猛暑の影響により前年同月比ほぼ横ばいで推移した。また、今冬についても政府通知を校内周知し、節電の協力依頼を行った。	
	(vii)	営繕事業による施設の整備状況を記載してください。		★本年度においては、(高松)管理部一般教育棟2階内部改修、(詫間)寄宿舎2棟1階内部改修、(詫間)第1講義棟一部内部改修、(詫間)寄宿舎管理棟増築及び内部改修の工事を現在施工中である。また、緊急営繕要求にて、(詫間)寄宿舎2棟外壁改修について実施予定である。	
【2. 研究に関する事項】		(i)科学技術補助金等外部資金獲得に向けた説明会の実施等具体的な取組を記載してください。	①a)全国高専テクノフォーラムなどで研究成果を積極的に発信する。 ①b)JST新技術説明会、セミコンジャパン、イノベーションジャパン等の研究成果を公開できる展示会、発表会へ参加する。 ①c)首都圏で開催される展示会に教員シーズ等を発表する。 ①d)科学研究費補助金等外部資金獲得のためのガイダンスを実施する。 ①e)外部資金獲得のための有効な方策等を検討・実施する。	★全国高専テクノフォーラムなどで研究成果を積極的に発信、JST新技術説明会、イノベーションジャパンにおいては研究成果を公開・発表した。 ★TECNO-FRONTIER2012やグリーンイノベーション2012において教員シーズを発表した。 ★科学研究費補助金等外部資金獲得のためのガイダンスを実施した。 ★技術相談に対応して共同研究等を実施している。 ★申請可能な研究費プログラムの紹介を積極的に進めている。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して 実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
	(ii) 知的財産の資産化に向けた取組を記載してください。	②a) 四国地区高専、県内大学高専合同シーズ発表会などを開催する。 ②b) 高専シーズを活用した共同研究など産官学連携事業を推進する。 ②c) 四国地区高専で共同して、四国地区内での教員シーズを知的財産シーズの共有と企業とのマッチングを促進する仕組みを検討する。 ②d) A-STEPへの積極的な申請を促す。 ③a) 学生、教職員への知的財産教育を行い事業化可能な知的財産取得を推進する。 ③b) 学生向けの知的財産講習会等を行う。 ③c) 学内発明コンテストを実施し、学生の知財意識の涵養をはかるとともに、学生の知財出願を支援する。	★四国地区高専、県内大学高専合同シーズ発表会を開催した。 ★技術相談から高専教員シーズに繋ぎ共同研究など産官学連携事業を行った。 ★四国地区高専で共同して、四国地区内での教員シーズと知的財産シーズを首都圏の展示会等でPRした。 ★A-STEPへの積極的な申請を促すとともに、学生、教職員への知的財産教育を行い事業化可能な知的財産取得を推進している。 ★学内発明コンテストを実施し、学生の知財意識の涵養をはかるとともに、学生の知財出願の支援を行っている。	事業内容の詳細な取組を記載願います。
【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項】	(i) 小中学校と連携した理科教育等の取組を記載してください。	③a) 小・中学校への出前授業や公開講座をより積極的に実施し、その取組事例の情報発信に努める。 ③b) 情報発信に香川高専HP、ICTオープンキャンパスを利用する。 ③c) 地域やコミュニティセンター等でのイベントに積極的に参加協力する。 ③d) みとよ少年少女発明クラブのサポートを推進する。	★小中学校への出前授業や公開講座をより積極的に実施し、その取組をホームページに掲載し情報発信している。 ★7月に本校でAndroid入門講座を開催した。 ★科学体験フェスタやサイエンスフェスタを企画し、市民イベントへの出展を通じて、地域貢献を行っている。	③b) 情報発信のICTオープンキャンパス利用について記載して下さい。 ③d) みとよ少年少女発明クラブのサポートの推進について記載して下さい。
	(ii) 公開講座の実施状況(満足度含む)について記載してください。	④a) 県・市との連携による講座について、継続して充実を図る。 ④b) 地元の組込み技術者を対象とした、組込み技術者セミナーを開催する。 ④c) 各種媒体を活用して地域への情報発信に努める。	★9月に、専門講習会「組込みAndroid入門講座」を開催したところ、受講者は香川県をはじめ京阪神地域など幅広い地域から参加していた。 ★10月実施の組込み技術者セミナー基礎コース(3回)には、地元技術者7名が受講した。 12月に、組込み技術者セミナー実力養成コースを計画している。 ★県・市との連携による講座については、新たに図書館との連携を図るなど、継続して充実を図っている。 ★ホームページや各種広報誌を活用して地域への情報発信に努めており、主催した公開講座・セミナーについて、受講者から高い満足を得られている。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して 実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
	(iii) 地域共同テクノセンターの利用状況を記載してください。	①a) 地域人材開発本部、みらい技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの体制の充実を図る。 ①b) 四国地区高専地域イノベーションセンターを通して、四国地区高専の連携を推進する。 ①c) 三豊市や企業との産学官連携ネットワークを構築し、地域の活性化を図る。 ①d) 企業等との連携のためのイブニングセミナーなどを行う。 ①e) 引き続き、組み込み技術者セミナーなどを開催し、地域技術者育成に貢献する。 ①f) 施設機器の開放の制度を整備し、公表する。	★全学委員会により、地域人材開発本部、みらい技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの体制の充実を図っている。 ★四国地区高専地域イノベーションセンターとして、四国地区高専の連携ネットワーク構築の中心的役割を担っており、テクノフロンティア、グリーンイノベーション等に出展している。 ★企業等との連携のためのイブニングセミナーなどを開催している。 ★組み込み技術者セミナーや機械設計技術者のための寺子屋2012などを開催し、地域技術者育成に貢献している。 ★研究推進の観点から、施設機器の開放の制度を整備し、公表する予定である。	
	(iv) 留学生受入拡大に資する環境整備(施設面)の実施状況(具体的な整備内容等)を記載してください。(特に、留学生寄宿舎について)		★留学生のための寄宿舎改修を本年度の営繕事業にて(詫間)寄宿舎2棟1階内部改修工事において、男子留学生のための補食談話室、シャワー室及びトイレの改修を施工している。引き続き来年度において、寮室の改修を計画している。	
	(v) 交流協定について進行中のものがあれば進捗状況について記載してください。	⑥-1a) 国際シンポジウムの開催や交流協定校等が主催する国際シンポジウム等への参加などにより、海外の教育機関との学術交流を推進する。 ⑥-1b) インターンシップ受け入れを推進する。	★本年6月にクライストチャーチ・ポリテク(CPIT)と学術交流協定を締結した。 ★10月に協定校の東洋未来大学(韓国)訪問の際は、教員3名、学生6名を派遣してKINTEX(韓国国際展示場)で開催された韓国電子展(KES2012)において、学生展示を行い、研究成果を展示して英語でのプレゼンを通じて、交流活動を実施した。 ★英語による専門科目の授業を行うため、1月に協定校の正修科技大(台湾)から講師を招聘する計画をしている。 ★3月に協定校のマラ工科大と環境に関する国際シンポジウムを開催する予定である。	
	(vi) 学生の海外派遣についての取り組み(実行済み・進行中・今後の予定)があれば記載してください。	⑥-2) 国際交流協定校を中心とする学生のインターンシップ海外派遣について検討する。	★5月に海外インターンシップ研修者(専攻科学生2名)の実施報告会を開催した。 ★11月に第1回学生による国際体験報告会を開催し、国際的体験のあった学生(本科3名、専攻科2名)の発表があった。引き続き来年1月に第2回を開催する。 ★高専機構などが主催する国際会議、学生交流行事への学生参加を推進しており、ISATE2012(1名)、ITS2012(5名)、日台iGOシンポジウム(2名)、アジアの学生の高専体験プログラム(1名)に派遣した。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
	(vii) 留学生の受け入れ強化(留学生用の居室整備や単位制度・受入身分制度の整備等)について進行中のものがあれば進捗状況を記載してください。	⑦a) 各種イベントに留学生に参加してもらい、留学生と日本人学生、留学生と地域社会との交流を推進する。 ⑦b) 私費留学生など外国人留学生受入拡大に向けた環境整備の充実ならびに実施体制に関する検討を進める。 ⑦c) 学術交流協定校と私費留学生短期受入れについて検討する。 ⑧a) 留学生見学旅行を実施する。 ⑧b) 四国地区高専外国人留学生交流活動に参加する。	★留学生交流会を5月と9月に2回開催し、留学生を中心として行政の国際交流関係機関ならびに地域の国際交流団体との交流を図った。 ★ユネスコ協会や県及び地元の国際交流協会が開催する各種イベントに留学生も参加してもらい、県内の留学生と日本人学生、留学生と地域社会との交流を推進している。石川県で開催されたジャパンテントに参加し、全国にいる世界各国からの留学生と共に文化交流を行った。 ★私費留学生など外国人留学生受入拡大に向けた環境整備の充実ならびに実施体制に関する検討を進め、学術交流協定校と私費留学生短期受入れなどの制度設計に着手しており、「留学生の手引き」作成の検討にも着手した。 ★12月に四国地区高専外国人留学生交流活動に参加する予定である。 ★1月に留学生見学旅行を実施する予定である。	
	(viii) 留学生の受入体制の強化(留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)について記載してください。			
	(ix) 教員の研究分野や共同研究・受託研究等の成果情報の広報活動状況について記載してください。	②a) 香川高専HP、ICTオープンキャンパスや技術シーズ集などの印刷物で研究成果を定期的に公開する。 ②b) 香川高専HPIに、みらい技術共同研究センター並びに地域イノベーションセンターの活動をより詳細に掲載する。	★HPや技術シーズ集などの印刷物で研究成果を定期的に公開している。 ★HPIには、みらい技術共同研究センター並びに地域イノベーションセンターの活動について、従前以上に詳細かつ迅速に行事ごとの掲載をしている。 ★技術シーズ集は電子媒体で作成し、より利便性を図った。	
	(x) 地域技術者育成(社会人の学び直し等)の取組状況について記載してください。		★講習会「機械設計技術者のための寺子屋2012」や組込み技術セミナーを開催し、社会人の学び直しへの取り組みを行った。	25年度計画に地域技術者育成の取組状況についての記載をして下さい。
	(xi) 卒業生ネットワーク作りと活用状況について記載してください。	⑤a) 同窓会総会に教員も積極的に参加して連携を深める。 ⑤b) ホームカミングデーを開催する。 ⑤c) 同窓会に働きかけ、会員相互のネットワークの構築を支援する。	★学科同窓会組織を支援し、7月の定期懇親会では33名が連携を深めた。 ★卒業生に授業や実習等に参加してもらい、教育の充実を図る技術者活用プログラムへの取り組みを行っている。 ★7月に実施した同窓会総会には教員13名が参加し、連携を深めた。 ★11月の学園祭時にホームカミングデーを実施し、289名の参加者があった。 ★開設している同窓会のHPIに、同窓会総会やロボコンの情報を発信したり、掲示板を作成して話題を提供し、より活発な情報交換が行われるよう進めている。	
【4. 管理運営に関する事項】	(i) 共同利用スペースの創出など、施設マネジメントに関する取組を記載してください。 【再掲】	【1】(6)①③参照	★共同利用スペースについては、教育研究を目的として利用希望を募り、利用計画等を記載した利用申請書の提出により、施設マネジメント委員会の議を経て校長が利用許可を行い、施設の有効利用を図っている。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して 実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
	(ii) 職員宿舎について、取り壊しなど施設の整備状況を記載してください。		★各職員宿舎とも入居率の状況から維持保全を行う計画を立て、保有を継続する方針としている。	
	(iii) 施設等の取り壊しにより発生した未利用地がある場合、当該土地の利用計画又は計画の策定状況を記載してください。		★詫間Cについては、昨年度末に寄宿舍第1棟の取り壊しを行ったことで、その跡地利用について、環境整備コンテストにて学内外から妙案を募り、審査選定の結果、キャンパス憩いのスペースとして実施設計中である。高松C及び詫間Cのその他の未利用地については、関係部門と連携して利用計画を策定している。	
	(iv) 職員宿舎の利用状況を団地毎に記載してください。なお、長期未利用の宿舎がある場合、今後の改善策等も併せて記載してください。		★長期未利用宿舎は存在しない。	
【5. 業務運営に関する事項】	(i) 施設の実態を踏まえた整備計画の策定状況や、同計画に基づく整備状況を記載してください。 【再掲】	【1】(6)②参照	【1】(6)②参照	
	(ii) 食堂等の福利厚生施設に関する施設整備計画の策定状況や、同計画に基づく整備状況(具体的な整備内容等)を記載してください。	「Ⅶ. 1. (a)」教育研究の推進や学生の福利厚生 の改善のために必要な施設設備の新設、改修、 増設等を計画的に進める。	★年次整備計画において、H25年度以降の改修整備計画を策定している。	
	(iii) H22年度に策定した省エネ化対策方針等に基づく省エネの取組を記載してください。(具体的な取組内容や温室効果ガス排出量削減効果等) 【再掲】		【1】⑥参照	
	(iv) 東日本大震災の影響による節電の取組を記載してください。 【再掲】	「Ⅶ. 1. (b)」参照	「Ⅶ. 1. (b)」参照	
	(v) 東日本大震災により被災した施設の復旧状況を記載してください。			
	(vi) 一般管理費を縮減するため講じている具体的な取組を記載してください。	「Ⅱ (d)」一般管理費縮減の見直しについて、検討を行う。	★コピー用紙の削減に努めている。 ★消耗品(封筒等)購入については両キャンパス分を一括購入している。	
	(vii) 実質的な競争性が確保された調達にあたるため講じている具体的な取組を記載してください。		★入札参加資格等について、業務内容を勘案し、過度の制約とならない必要最小限となるよう留意し、また入札に参加しやすい資格要件を設定するよう努めている。	
	(viii) 一者応札・応募となった契約案件について、事後点検等も含め、改善への具体的な取組事例を記載してください。		★仕様内容を最小限必要な条件にとどめ、参加業者が多数参加できるように努めている。	

香川高等専門学校 平成24年度計画フォローアップ様式

	機構本部 事前確認事項	弊校平成24年度計画 該当箇所	平成24年度年度計画に対応して実施もしくは実施予定の事業内容	確認事項
【6. その他】	仙台高専、富山高専、香川高専、熊本高専は、学年進行に合わせた施設の整備状況（具体的な整備内容等）を記載してください。		★統合高度化再編にあたり策定された高度化再編整備計画に基づき、H21年度より学年進行に合わせて年次的に（高松）地域イノベーションセンター改修及び（詫間）第二学科棟改修を行ってきており、本年度においては（詫間）第一講義棟3教室について、創造実験実習室に改修工事を施工しており、年度内に完成予定である。	

将来構想計画案の策定状況



(独)国立高等専門学校機構
香川高等専門学校

2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

1

1. 香川高専の課題

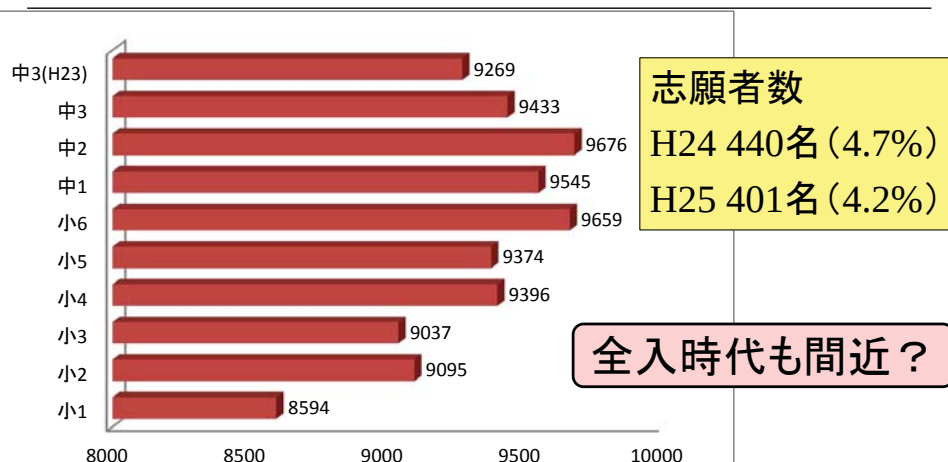
- 少子化の進行
- 女子学生比率の低迷
- 偏りのある学科構成

2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

2

2. 少子化の進行



2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

3

3. 女子学生比率の低迷

		男子	女子	合計	女子学生比率
1	香川(高松)	734	66	800	8.3
2	鹿児島	942	95	1037	9.2
3	舞鶴	751	77	828	9.3
4	東京	929	96	1025	9.4
5	津山	768	85	853	10.0
6	和歌山	735	96	831	11.6
7	秋田	766	101	867	11.6
8	長岡	931	128	1059	12.1
9	仙台(広瀬)	641	89	730	12.2
10	奈良	889	127	1016	12.5
11	小山	902	130	1032	12.6
12	釧路	860	125	985	12.7
13	香川(詫間)	624	91	715	12.7
14	呉	732	107	839	12.8
15	鶴岡	706	107	813	13.2

女子比率の高い高専

富山高専(射水) 39%

(国際ビジネス学科)

福島高専 32%

(コミュニケーション情報学科)

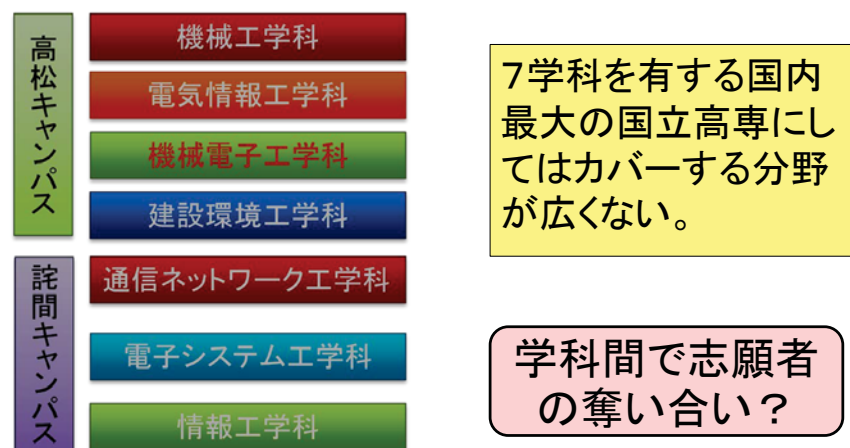
女子に人気がない
香川高専

2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

4

4. 偏りのある学科構成



2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

5

5. 将来構想の基本方針

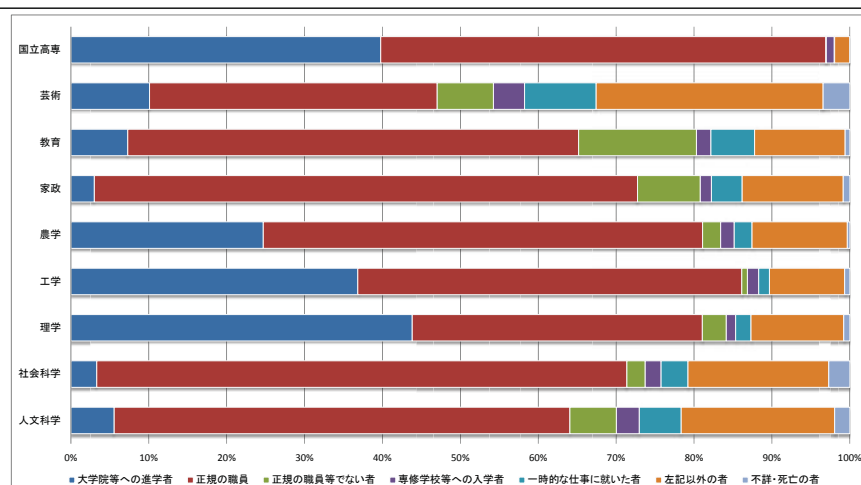
- 入口の拡大(女子中学生にも魅力的な学校)
- 出口の確保(確実な就職先が見込める)
- グローバル時代に対応した教育(外国語教育の充実)
- 地域社会・産業のニーズ(地域が必要としている分野の強化)
- 移行期を乗り切れる(教員増は期待できない)

2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

6

6. 文系分野はすでに過剰供給



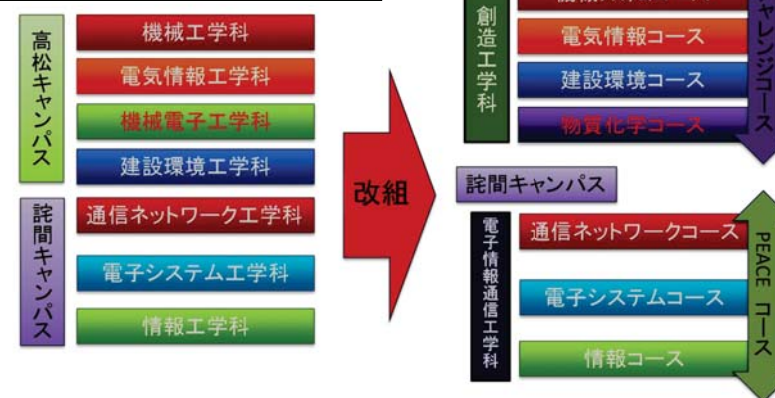
2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

7

7. 検討中の改組案

2学科7コース制, 物質化学コース新設, 副専攻設置



2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

8

8. 期待される効果

◆物質化学コースの新設

- ①機械、電気、建設コースを含めた工学の4本柱でより幅広い産業に対応
- ②女子志願者の増加
- ③地域社会の要請に対応(県内への基礎素材型産業や食品産業の誘致を強化)

◆2学科7コース制

- ①入学後の転科に柔軟に対応
- ②他コースの科目履修によるコースを越えた幅広い知識の修得

◆副専攻の導入

チャレンジコース:コースを越えた幅広い知識を学び複合技術を習得する機会を提供
PEACEコース:「ものづくり」と語学教育を組み合わせたグローバルエンジニアの育成
Progressive English Active Course for Engineers

2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

9

9. 現在の構想の課題

- 物質化学コースに具体的な地元のニーズ(地域産業界の期待, 地元就職先)はあるのか?
- 女子の志願者は増えるのか?
- 現行学科の教育を確実にやりながら新学科をスムーズに始動するためには, 教職員や施設の年度整備計画の策定が重要

2013年2月13日(水)

香川高専平成24年度外部評価委員会説明資料

10

9. 香川高等専門学校外部評価委員会 委員からのご意見等（要約）

○香川県内中学生からの志願者割合が約4%強ということで、愛媛や岡山でも進路指導の広報活動をされていますが、他県からの入学生はどのぐらいの割合ですか。

愛媛や岡山、徳島などでの入試広報活動はやるべきなのか、文部科学省から入口・出口とも、地元への貢献が問われていますが、他県まで入試広報活動に行く意味についてお聞きしたい。

○香川県の中学3年の人数が現在約9,000人ですが、「少子化の進行」で少なくなり、現在の小学1年の人数が約8,500人であることを考えると、県立高校の受験者も少なくなっていく。また、県全体の高等学校の定員については、私学とも協議会を設けて定めていますので、入学定員はこれからどんどん少なくなっていく。高専は定員の協議会に入っていないが今のままで良いのか。

○県立高校は基本的に香川県内の生徒を対象としているが、高専は県内に限らず全国から学生を集めることができるので、仮に高専の定員がこのままの状態を維持するとしても、岡山など他県から来るのであればと思う。

○中学校を所管する教育委員会としては、「定員」という関係では、今後ますますシビアになると思うが、中学校の立場からすると、卒業生の進学先が多様であった方が良い。多様な選択肢を選んで自分自身で人生を設計することがこれからは必要になるという意味では高専が香川県にあることは非常に良いことです。

○女子だから文科系というよりは、女子でも理科系に進むことを一つの選択肢として、高専の方で理科系の魅力をどんどんアピールしていただけることはありがたいと思う。

○高専は非常に就職率がいいので、父兄にとっては非常に魅力だと思う。

高専のコストは、親からすれば非常に安いと思う。例えば、私立大学だと親は相当の負担を強いられるが就職が悪い。benefitが非常に良くてコストが安いのでvalueが高い、とゆうことを高専は、ホームページなどにどんどん掲載して、就職率が良いだけでなく、コストも安いですよとPRすれば、4%から10%に増やせるのではないかな。コストは、これからは非常に重要になると思う。

○学生が減れば当然現状維持は難しいと考えるのが普通です。その中で、高松キャンパスと詫間キャンパスの重複をどうしていくか、将来的には整理をしていかなければならない

中で新しい学科を、今回は、機械系2学科を一つにして、物質化学コースを設置する。ということですが、例えば、電子システム工学科と電気情報工学科は、整理ができないか。将来的には、定員を減らして。

○女子学生にこだわっていますが、やはりバイオと化学関係は女子学生が多いので、そのへんが狙いだと思いますが、物質化学コースは、一体どういうものを具体的に想定されていて、教育内容がどういうものか、少しはっきりしないことと、教員や設備の整理がかなり必要ようで、そのためには、地元の後押しがないと難しいようです。ですから、地元のニーズをきっちりと把握し、地元のかかなりの後押しが財政的な負担も含めてあるのかを調査した上で設置するべきだろうし、化学会社や薬品関係など、香川県の中に強力にバックアップできる企業があるのかをよく考えた上で、物質化学を取り入れることを決めていくことが必要ではないかと思います。確かに、女子学生には人気のあるコースです。情報系のコースは女子学生が多く、就職先もソフト関係などの会社などですが、工場よりもオフィスでの仕事に配置され、現場の人員は稀少です。今まで文科系に進んでいた女子学生が、急に理系に変わるのは難しい話ですから、いかに女子学生に人気のあるところを持って来るか、そういう意味で、まだFS（feasibility study：実現可能性）の調査が必要ではないかと感じます。

○少子化問題に着眼されているのは、学校の準備としては素晴らしいことと思います。

三豊市には、「三豊発明クラブ」という子どもたちの会がありますが、それが非常に活性化しております。託児キャンパスの教室を使わせていただいています。地域と学校における壁が低くなり、お互いにフレンドリーになってきているような気がします。この流れは、ぜひ今後とも継続をしていただきたい。

○観音寺・三豊では大学がないので、香川高専が、われわれ西讃地区にとっては最高の学術機関ということで、市民も非常に頼りにしていますし、敬意も払っていると思います。香川高専から提供される情報や、香川高専との連携がもっと強められないものかという要望があります。少子化を頭に入れながらの運営は大変だと思いますが、三豊市サイドからいえば、地域との壁が低くなって、市民对学校がいろんな分野で交流させていただいていることは有難いことです。こちらにとっては欠かせない存在と考えています。

○高松高専創設当時はいかにして高専に合格するか、が非常に大きな命題でした。田舎の方の学校だと、学校から1名行けるか行けないか、というところでしたが、今は、いかにして学生を集めるか、ということで、この50年近くに一体何が起きたのかと思います。私の記憶では、1期は十数倍の競争率で、2期でも10倍でした。それも集まるレベルが高松高校クラスだったのが、なぜ、こういうふうになったのか。卒業生が悪かったとは、私は思いません。今でも、そこそこの倍率は維持されている、ということですが、何で年々落

ちているのか、なぜ、魅力がないのか、を根本的に考える必要があると思います。

○英語教育をやっている、とお聞きしましたが、学生で経験している私からは、随分と昔よりも後退しているように思いました。今は、専攻科の学生が外国人教師から習っているとのことですが、私が習っていた昭和40年頃、既に外国人教師相手に、英会話をバリバリやっていました。その後、私の娘のときも、高専で外国人講師がいて本科でどんどんやっていました。今は、やっと専攻科でやっていますよということで、何か、途中で遅れた時があるような気がしています。当然、国際化が叫ばれているので、そういう方面は昔よりはるかに進んでいるだろう。と思っていたのですが、後退しているような印象を受けました。

○私は会社で、中学生の子を持つ世代の社員には、事あるごとに、高専はええところやとできる限りは、宣伝しています。実際にいいところだと思います。そういうことで、社員のお子さんもだいぶんこちらでお世話になっているようです。日頃から口コミというか、高専のことをもっとよく知って、周りに教える、ということです。実際に非常にいいところがあると思いますので、先ほども言われていましたが、いろんな手段でもっとPRする。特に高専女子の資料は、見てもらえるノリでうまく作っていて良いと思います。

○「詫間の方に移設する」という話は、三豊市長さんと詫間キャンパスへのリップサービスだと思いますが、やっぱり高松市に人口が集中していますから、向こうへ行くと今の5%程度の中学生が3%ぐらいになってしまうのではないかと思います。自宅から通えるのがメリットで、今頃の少子化の中では、特に中学校を卒業したばかりで寮に入れるのは、昔と違って、親離れ子離れができていないので、たぶん難しいのではないかと思います。

○「女子が少ない」ということですが、昔から40人、新しい学科とコースで状況を見ながら、定員を振り分けられるのは、物質化学もそれはそれでいい、とは思いますが、それ以上に、学科とコースの間で少し定員の融通がもてるのは、非常にいい構想ではないか、と思いました。私の頃は、40人中、電気は2人で、機械は80人中ゼロでした。とても寂しい思いをしました。当時よりは今は若干増えているようですが、全国ブービーの汚名は返上してほしいと思いますので、こういう取り組みは必要ではないか、と思いました。

○「入学者数が減っている」云々、という話がありましたが、昔の詫間電波は、高校の時代からですが、電波通信という学科しかありませんでした。全国でそれを勉強して、通信士の資格を取るには、全国で国立の高校は3校しかなかったんです。各校2クラスや3クラスで280名ぐらいなので、全国から人が集まって来て入学してたんですね。

香川県の三豊郡詫間町に学校はありますが、香川県出身者は、三分の一以下でした。東は東京、西南は沖縄から集まって来て、卒業するとまた散って行き、そのうちの約三分の一は、日本の国を離れて仕事をしていたんです。通信という特殊な学科があるから全国から集まって来て、その通信を糧に国外に散って行った、ということ。英語の教育は、一般

の高校レベルか、あるいは若干高かったかな、と思いますが、それでポンといきなり日本の外へ放り出され、英語は体で覚えて生きてきました。

○香川高専にしてもそうですが、どこにでもあるような学科、どこにでもあるような学校、各県1校ある学校という意味で、学校や学科の特色、「あそこへ行って勉強しよう」という特色がないから、じゃあ、家から近い方がいい、とか、勉強に対する興味以外のところで学校を選んでしまう、そうであれば、普通の高校から大学に行く、というのが選択肢になるので減ってきたのではないかと、もちろん、少子化というのも当然あると思いますが、やはり、子どもたちが減っていく中で、香川高専にぜひ行きたいという魅力、学校としての魅力というよりも、教える内容、学科としての魅力が、世間の通り一遍のものと同じ、というところで魅力を感じない、というか、魅力を薄くしているのではないかと感じます。では、「どういう学科を創ると興味をひくのか」というと、やはり何か特色のある、香川高専でなければ学べない、もちろん他の学校にあっても良いですが、どこにでもある通り一遍のものを並べただけでは、将来の行く末は、通り一遍の高専で終わってしまうのではないかという感じを受けます。幕の内弁当じゃなくて、何か本当に特色を持った一品料理、一品だけでも、全国どこに出しても負けないというものが、一つ目玉としてあればと思います。

○中学生数が減少していく中にあるのは、特色を出していく、全国で同じようなものを教育サービスで提供するというよりはむしろ、「この学校でしか提供できないもの」を打ち出していくというふうに進んで行かざるを得ないのではないかと考えています。

例えば、四国全体を見たとき、同じ色が四つ付くよりも四つの県で違う色があり、これを勉強したいなら、香川の人でも徳島や愛媛に行かなければいけないとか、逆に、他県から香川に来ないといけないというようになるのではないかと思います。

高等教育機関は、もちろん地域性も大事ですが、もう少し幅広く全国的な視点で見た場合には、高専の在り方としてはそのようになってゆくのではないかと思います。

○高専機構という、ひとつの法人になっていますが、それぞれの高専が個性を発揮するようなところで、機構の方針と高専の考え方に、そんなに齟齬はないということですか。

○改組でこういう方向性としてやられたら間違いないかな、と思いますが、国の認可はある。国から言われたのは、「入口と出口」と、中で「どういう人材・能力をつけた者を出すのか」ですが、そのへんで産業界では、香川高専さんがこういうことで人材を養成することになれば、出口「受け皿」は、確かに増えますというようなところはありますか。

○必要とされるのは、国際的に活躍できる人材です。さらに、大企業もそうですが、状況が変わってきているので、変化に対応できるような学生たちを育てないと、これからは学

生たちも不幸になると思います。また地元企業側も大変困ります。教育で特殊な学科を設置するのもいいと思いますが、「これからの時代に合う人材をどう教育するか」、そのへんに香川高専の特徴をしっかりと作り込んでもらいたいと思います。どこもが同じような教育ではなく、教育の仕方や中身、時代にあった人材をどれだけ育てられるか、が最終的な姿ではないか、と思います。それが基本にあり、「国際的に活用できる人材」が必要です。

コミュニケーションができないと、海外で仕事できませんし、海外でのお客様の要求を聞き出すこともできません。そういう若者では我々産業界も非常に困るわけです。これからの時代に合うような学生にしていきたいと思います。

○地場産業のところでも、国際展開をするから積極的に外に行く人材を育ててほしい、というご意見を去年もここで検討して頂きました。今年も出ていると思います。

○女子の志願者をいかにして増やすか、ということですが、一般論としてはいいことだと思いますが、かといって文系は供給過剰でそちらの方には舵は切らない、理系で行く、ということですから、理系で行って、かつ、女子はどうか、というよりも、わかりやすいのは文系の分野にも、地域的にいうと高松の四つのうちの一つは、そういうところを創ってみる、と考えるのも一案かと思います。

理系で女子もほしい、というのでは問題は解決しないと思います。そういう気持ちがあるのであれば、文系分野は過剰、というのではなく、新しくチャレンジしてみる必要があるのではないか。理論に無理があるような気がします。わざわざ壁を設けて文系には行かない、でも女子はほしい、というのは矛盾しているような気がします。

○「将来構想計画案の策定状況」スライド9頁の「8. 期待される効果」中「物質化学コースの新設」のところで、「地域社会の要請に対応」というのがあります。一方で、次のスライド「9. 現在の構想の課題」というところでは、「具体的な地元のニーズがあるのか」というのがあります。「8.」に書いてある「地域の社会の要請は具体的にどういうものか」ということと、今後の「地元のニーズもどういう観点で作っていくのか」、そのあたりを教えていただければ、と思います。

○「入口と出口のアンケート調査をしたか」とか、インタビューがどうだ、などを求められると思いますから、そのへんを踏まえて案を作っていただければと思います。

○香川大学は、化学ではなく、土木の学科ができたのですが、今回、化学に目をつけられたのは、非常にいいことだ、と考えています。

書籍に、高専は15歳からの早期専門教育が特徴、と書いてありますが、こういうことを

中学生のお子さんに説明するのも大事ですが、ご父兄にもっともっとPRして、高専の卒業生のレベルが高く、産業界に貢献されておられるのが常識になっているので、そのあたりをもっとPRしていけたらいいのではないかと思います。

○詫間キャンパスがロボコンやプロコンで全国に名を馳せていただいています。そのことは、入学者の選択の動機とはなっていないのですか。入学したいな、という憧れのようなものにはなっていないのですか。

○入口の話も結構ですが、就職率を見ますと、高いので、われわれの実感も高専の学生は昔と同じように中堅幹部という意味で非常にニーズが高い、そのへんをしっかりとらまえて、今後もやっていただきたいと思います。

入口だけではなく、出口に至る教育が一番大事だと思います。

○入口があって、中でどういう教育をして出口がどうか、という、その三つが改組にもっていくと問われると思います。

○高専はできてから30～40年、詫間が70年ぐらい前で、大学教育と高校教育の中間みたいなものを40年ぐらい前に、企業即戦力を供給する意味合いでできたのかなと思います。その実績から就職率が高い。全国に51ある高専がそういう地位を占めているという気もするわけです。

そういう中で女子をどうこうというのは、たぶん就職側に需要がないからですね。まだそういうところに就かない社会だから、という気がするわけです。昔はトラックの運転手に女子はいなかったし、消防士に女子もいなかった。それが日本全体を考えると、人口減少にはなっていますが、今から日本を盛り上げていくのはどういうことかということ、女性をどう使っていくかだろうと思います。そうであれば、機械であろうが土木であろうが、これからは女子の必要性も絶対に出てくる。そう考えると、工学に特化して、文系は知らないという方がより教授陣が凝縮できる、効率的にできるのであれば、それはそれでひとつの見識かな、と思います。